

宇都宮市埋蔵文化財調査報告 第59集

西刑部西原遺跡

平成19年5月

宇都宮市教育委員会

序

宇都宮市の東谷・中島地区付近の台地は、小河川による低地に刻まれ、南北に広がっています。この浸食を受けなかった部分は微高地として残っており、そこには大規模な遺跡群として、杉村遺跡、権現山遺跡、磯岡北遺跡などの古代集落や東山道といった貴重な遺跡が複合して存在しております。

近年のこの周辺地の開発はめざましいものがありますが、その反面、開発に伴ってこれらの遺跡群は発掘調査を行なわれながらも、次第に姿を消していております。

今回、株式会社山品商事の施設建設に伴い、影響を受けることとなった埋蔵文化財の取り扱いにつきましては、関係機関との協議のうえ、記録保存のための発掘調査を実施いたしました。その結果10mを超える巨大な竪穴住居跡や、古墳時代中期～後期の住居跡が確認されるなど、本地域の集落の変遷などを知る上で貴重な資料を得ることができたものと考えております。

本報告書は、発掘調査において得られた成果をまとめたものであり、多くの方がさまざまな方面におきまして広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、埋蔵文化財の取り扱い協議から発掘調査、そして報告書作成・刊行に至るまで多大なるご協力とご理解をいただきました関係各位、関係機関並びに終始ご協力いただきました地元関係各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成19年 5月


宇都宮市教育委員会

教育長 伊 藤 文 雄

例 言

1. 本書は、栃木県宇都宮市東谷町インターパーク 5 2 - 2 街区 1 画地に所在する西刑部西原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は宇都宮市教育委員会が主体となって行った。現場実務は宇都宮市教育委員会の指導のもと、(有) 山武考古学研究所が実施した。
3. 調査は、山品商事株式会社が行う施設建設工事に伴い、独立行政法人都市再生機構の発注する東谷・中島地区 5 2 - 2 街区 1 画地埋蔵文化財発掘調査業務委託として実施した。
4. 遺跡の面積及び調査期間・調査担当は下記の通りである。
調査面積 1,000m²
調査期間 平成19年1月4日～平成19年2月6日
調査担当 土生 朗治、松田 政基、大橋 忠之、越智 徹、宮田 和男 (山武考古学研究所)
5. 本書の執筆は I - 1 を大塚雅之 (宇都宮市教育委員会)、I - 2 ~ 4 を宮田、II - 1 ~ 4 の遺物関係を越智、II - 1 ~ 4 の遺構原稿及び編集を土生が担当した。
6. 調査期間に於いて、下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表するものである。
(順不同・敬称略)
田代 隆、瀧瀬 芳之、津野 仁、内山 敏行、梁木 誠、上野 茂、宇都宮市シルバー人材センター、
(財)とちぎ生涯学習文化財団、カワヒロ産業、新成田総合社

凡 例

1. 第 1 図は国土地理院発行 5 万分の 1 『宇都宮』、第 2 図は宇都宮市発行 2 千 5 百分の 1 都市計画図 11-4 を使用した。
2. 本書及び遺物の注記に使用した略号は次の通りである。
西刑部西原遺跡→UTNN 住居跡→SI 掘立柱建物跡→SB 土坑→SK 溝状遺構→SD
3. 遺構実測図中の方位は座標北を示し、土層図・断面図に記した数値は標高を表す。
4. 遺構・遺物実測図の縮尺は次の通りである。
遺 構 全体図……1/400 住居跡……1/60 住居跡カマド……1/30
土坑……1/60 溝跡……1/60
遺 物 土器・土製品・石製品・鉄製品……1/3 紡錘車……1/2 (大きさによって適宜 1/4 等も使用した。)
5. 遺物写真図版の縮尺は 1/3 を基本として、紡錘車は 1/2 にした。
6. 遺構・遺物実測図中のスクリーン等の使用は次の通りである。
(遺構) (遺物)

● 土器 ▲ 石製品 ■ 鉄製品

目次

序	
例言・凡例	
I. はしがき	
1. 調査に至る経緯	1
2. 遺跡の位置と環境	1
3. 調査の方法と経過	4
4. 基本土層	4
II. 遺構と遺物	6
1. 竪穴住居跡	6
2. 掘立柱建物跡	28
3. 土坑・ピット	28
4. 溝	28
5. 遺構外出土遺物	32
III. むすび	32

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第13図 S I 05 (4)	17
第2図 遺跡の位置図	2	第14図 S I 06 (1)	19
第3図 遺跡全体図	5	第15図 S I 06 (2)	20
第4図 基本土層図	5	第16図 S I 06 (3)	21
第5図 S I 01	7	第17図 S I 07	23
第6図 S I 02 (1)	8	第18図 S I 08~10	24
第7図 S I 02 (2)	9	第19図 S I 11	26
第8図 S I 03	11	第20図 S I 12	27
第9図 S I 04	12	第21図 S B 01~02	27
第10図 S I 05 (1)	14	第22図 S K 01~05・07~09	29
第11図 S I 05 (2)	15	第23図 S K 11・12、P 1、土坑・ピット出土遺物	30
第12図 S I 05 (3)	16	第24図 S D 01、遺構外出土遺物	31

表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	3	第12表	S I 08出土遺物	22
第2表	S I 01出土遺物	6	第13表	S I 09出土遺物	25
第3表	S I 02出土遺物	10	第14表	S I 11出土遺物	25
第4表	S I 03出土遺物	10	第15表	S I 12出土遺物	25
第5表	S I 04出土遺物	13	第16表	S K 01出土遺物	28
第6表	S I 05出土遺物 (1)	13	第17表	S K 03出土遺物	28
第7表	S I 05出土遺物 (2)	17	第18表	P 27出土遺物	28
第8表	S I 05出土遺物 (3)	18	第19表	遺構外出土遺物	31
第9表	S I 06出土遺物 (1)	18	第20表	土坑一覧表	28
第10表	S I 06出土遺物 (2)	21	第21表	ピット一覧表	31
第11表	S I 07出土遺物	22			

図版目次

図版 1	1区完掘全景、2区完掘全景
図版 2	調査前風景、S I 01・02・03
図版 3	S I 04・05
図版 4	S I 06
図版 5	S I 06・07・08・09・11
図版 6	S I 11・12、S K 01・02・03・04・05・11
図版 7	S K 12、S D 01、S B 01・02 出土遺物 (1)
図版 8	出土遺物 (2)
図版 9	出土遺物 (3)
図版 10	出土遺物 (4)

I. はしがき

1. 調査に至る経緯

平成18年6月 独立行政法人都市再生機構から、株式会社山品商事の建物等施設の移築計画に関する事前協議がもたれた。現地は埋蔵文化財包蔵地に該当し、既存施設も以前からその範囲内に存在していた。今回はその既存施設のうち、倉庫棟及び地下浸透槽を隣接地に建設するものである。建築予定隣接地は栃木県埋蔵文化財センターにより事前に確認調査が実施されており、地下に遺構の存在が確認されていた。建築計画では、地下の遺構に影響を及ぼす部分は、建物の基礎部分とコンクリート土間部分、及び地下浸透槽の掘削部分である。遺構包含層である地山は、東に向かって緩傾斜しており保護層も東に向かって厚くなるため、建物土間コンクリートの掘削に伴う調査は、保護層が薄く遺構に影響を及ぼす当該建物の西半分となった。それ以外の基礎及び浸透槽部分は記録保存のための発掘調査を実施することとなった。調査を行なわない部分については保護層により、地下に影響を及ぼさないと判断できるため慎重工事に対応することとなった。

発掘調査は平成19年1月4日から実施した。

2. 遺跡の位置と環境

地理的環境

西刑部西原遺跡は、県南東部、宇都宮市と上三川町の市町境にあり、宇都宮市街地からは南南東へ約7km、上三川町の中心地からは北へ約6.5kmに位置する。東へ約4kmには鬼怒川が、西へ約1.5kmには田川があってそれぞれ南流しており、周辺には起伏の少ない田園地帯が広がっている。本遺跡の現況は、以前は水田や畑地等の耕作地として利用されていたが、現在は「東谷・中島土地区画整理事業」区域となっており、100haを越える広範囲にわたって先端技術、高度技術産業の研究所や工場及び流通業務施設の整備が測られている。また、東側に新4号国道、北側には宇都宮環状線、南側には北関東自動車道が走り、それらと結びついた交通の要衝として発展しつつある。

栃木県の地形は、東部山地、中央部低地、西部山地に分けることができる。東部山地は、八溝、鷲子、鶏足などの山塊からなる八溝山地で、西部山地は、那須、高原、日光、足尾などの山塊からなる下野山地と足尾山地である。東西の山地は南北に連なっており、両者に挟まれるように中央部低地が広がる。中央部低地は関東平野の北縁をなし、山地から延びる丘陵、東西に交互に繰り返される台地及び低地・河川からなる。全体的には南に向かって緩やかに傾斜しており、台地を開析する河川はおおむね南流している。これらの台地と低地・河川は、東から、鬼怒川低地（鬼怒川）、岡本・磯岡台地（宝木面・中位）、田原・願成寺台地（田原面・下位）、田川低地（田川）、神主台地（宝積む寺面・上位）、宇都宮・祇園原台地（宝木面・中位）と称されている。

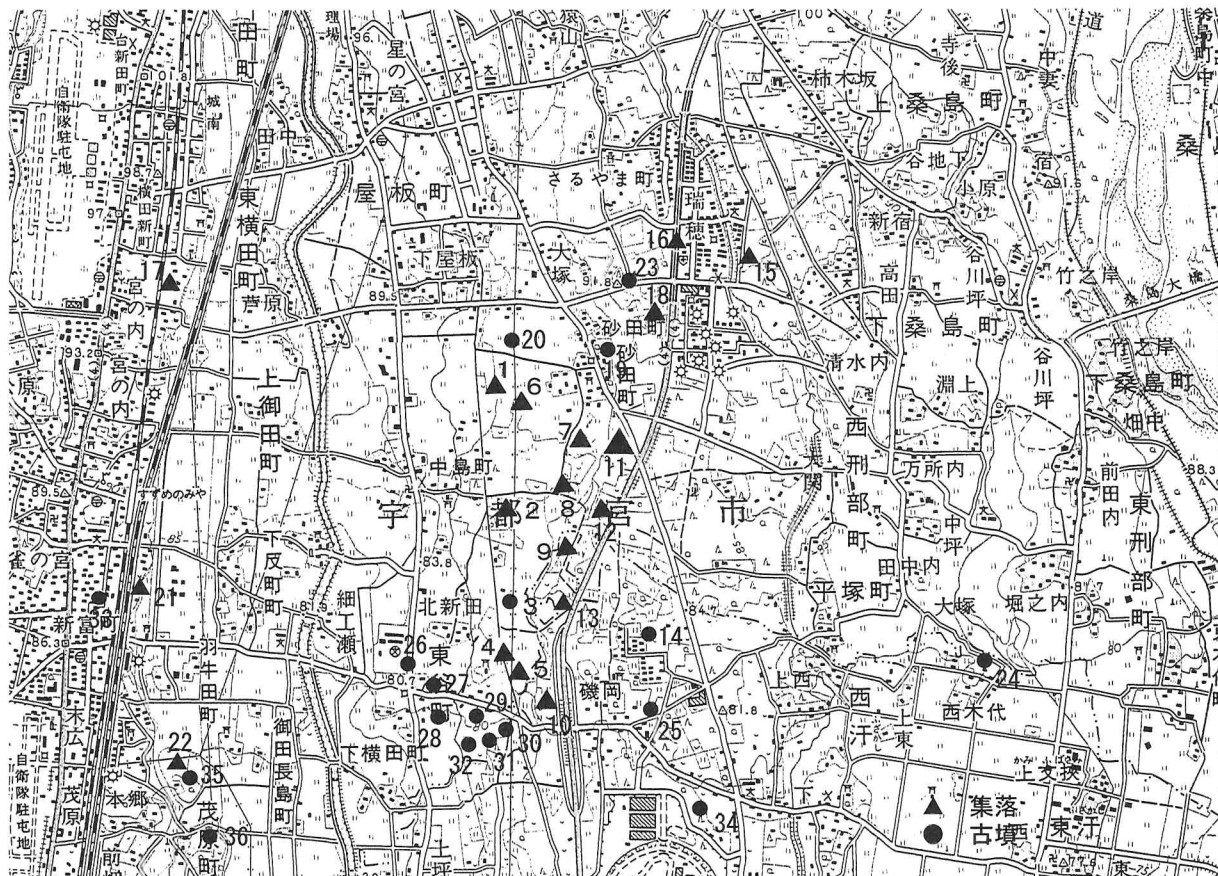
本遺跡は、岡本・磯岡台地上にあり、鬼怒川低地（鬼怒川）と田川低地（田川）に挟まれている。両台地内部には、小河川によって形成された細かな開析低地が発達しており、田川低地との比高は8～10mほどである。

本遺跡の調査区の標高は約87mである。地形的には北側から西側にかけて現在水田として利用されている比高差1～2mの低地があり、調査区の現地表面はほぼ平坦であるが、遺構の確認面は北側と西側で深くなり、旧地形は北と西に向かって緩やかに傾斜しているようである。

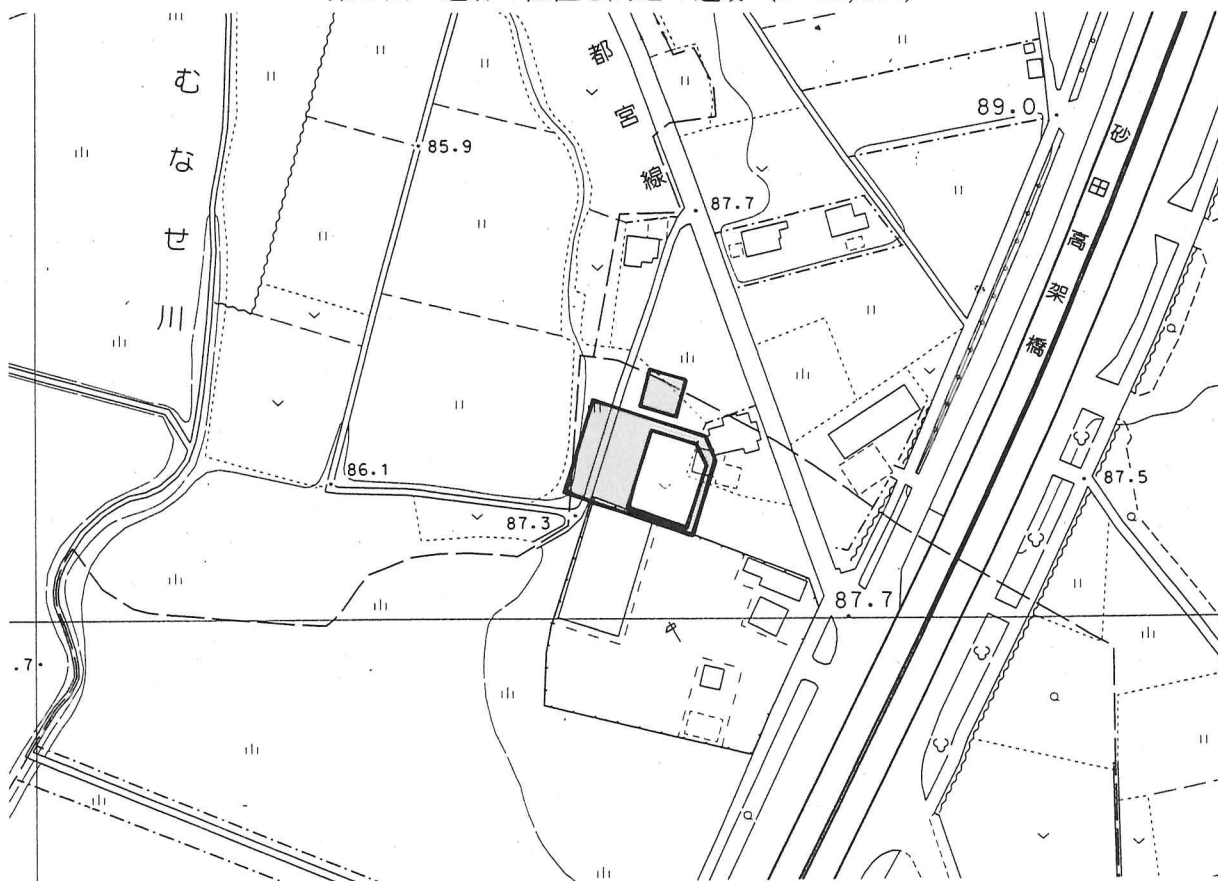
第2節 歴史的環境

西刑部西原遺跡の周辺には、南北方向に延びる台地に沿って各時代の遺跡が存在する。特に本遺跡で主体となる古墳時代以降の遺跡は数多く、古墳時代～古代にかけての下野国の中心地域のひとつと考えられている。ここでは、旧石器時代から奈良・平安時代にかけての代表的な遺跡について概観してみる。

本遺跡の周辺地域では、旧石器時代の石器や剥片礫群などの出土層位や面的な広がり把握された資料も増加し



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1 : 25,000)



第2図 遺跡の位置図 (1 : 2,500)

ている。旧石器時代の遺物の出土しているのは薄市遺跡、西赤堀遺跡、島田遺跡、立野遺跡、杉村遺跡、本遺跡等が挙げられる。

縄文時代では砂田遺跡から縄文時代早期の陥し穴、島田遺跡からは縄文時代中期の竪穴住居跡や袋状土坑が検出されている。薄市遺跡では縄文時代早期の撚糸文土器から前期の黒浜式土器、浮島式土器、晩期の姥山式土器、大洞式土器等が出土している。縄文時代後晩期の遺跡では石川坪遺跡等が挙げられる。

弥生時代は、中期後半以降の遺跡が見られ、杉村遺跡、磯岡遺跡、仏沼遺跡等が挙げられ、後期では二軒屋遺跡を始め、瑞穂野団地内遺跡や権現山北遺跡等から同時期の遺構遺物が確認されている。

古墳時代中期には、笹塚古墳を中心とする東谷古墳群、砂田遺跡、砂田東遺跡、立野遺跡、杉村遺跡、磯岡遺跡等に見られるような大規模な集落も生まれ、権現山遺跡では豪族居館跡も確認されている。後期になるとさらに集落遺跡の数も増加し、西刑部西原遺跡内の琴平塚古墳群などでは、小規模の円墳群が見られるようになる。

奈良時代以降では、本地域は下野国河内郡刑部郷にあたると考えられ、下野の中心地から北北東に延びる東山道が本遺跡の南半部の概調査部分で確認されている。周辺には上横田A遺跡、猿山遺跡、砂田遺跡、杉村北遺跡、瑞穂野団地遺跡等の奈良・平安時代の遺跡が見られる。

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	時期(古墳は墳形他表示)	No.	遺跡名	種別	時期(古墳は墳形他表示)
1	砂田遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	19	砂田東遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代
2	立野遺跡	集落跡	縄文～中世	20	砂田A遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代
3	桜稲荷古墳	古墳	円墳か。	21	牛塚東遺跡	集落跡	縄文～奈良時代
4	権現山遺跡	集落跡	弥生～奈良時代	22	権現山北遺跡	集落跡	旧石器～奈良・平安時代
5	杉村遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	23	下桑島西原古墳群	古墳	前方後円墳1基, 円墳2基
6	砂田滝遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	24	高・神社古墳	古墳	帆立貝式古墳
7	砂田姥沼遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	25	屋敷東浦愛宕塚古墳	古墳	前方後円墳(後期)
8	中島笹塚遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	26	双子塚古墳	古墳	前方後円墳
9	磯岡北遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	27	笹塚古墳	古墳	前方後円墳(中期)
10	磯岡遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	28	鶴舞塚古墳	古墳	円墳(中期)
11	西刑部西原遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	29	原古墳群	古墳	円墳8基
12	琴平塚古墳	古墳	帆立貝式古墳(後期)	30	車塚古墳群	古墳	円墳5基
13	杉村北遺跡	集落跡	縄文～奈良・平安時代	31	権現塚古墳	古墳	円墳
14	西赤堀遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	32	松の塚古墳	古墳	円墳
15	瑞穂野団地遺跡	集落跡	旧石器～奈良・平安時代	33	雀宮牛塚古墳	古墳	前方後円墳
16	猿山遺跡	集落跡	奈良・平安時代	34	西赤堀狐塚古墳	古墳	前方後円墳
17	宮の内遺跡	集落跡	縄文～近世	35	権現山古墳	古墳	前方後円墳(前期)
18	上横田A遺跡	集落跡	古墳～奈良・平安時代	36	大日塚古墳	古墳	前方後円墳(前期)

3. 調査の方法と経過

調査の方法

調査は、山品商事株式会社が行う施設建設工事に伴う、埋蔵文化財記録保存の措置として行われた。施設建設によって壊される部分の調査のため、倉庫建物の基礎と浸透槽建設部分の計1000㎡について調査を実施した。現地での調査は、調査区が2地点に分かれるが、南側の調査区を1区、北側を2区とし、遺構番号は今回の調査の中で独自に竪穴住居跡ならばS I 01から順番に通し番号を付することとした。

グリッドの設定は、これまでとちぎ生涯学習文化財団の行っている『東谷・中島地区遺跡群』の発掘調査に従って、国家座標第IX系X=+52,800m、Y=+6,400mを起点とするグリッドを踏襲した。

グリッド杭は現地に10×10mで設定し、グリッド名称は20×20mの範囲を単位として、起点から南へ向かって0、1、2…、東西方向をY軸として起点から東へ向かって0、1、2…と付番した。

調査は表土掘削、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。

遺構の記録は1/20縮尺を基本として平面・断面図を作成し、遺構・遺物の規模や性格により、1/10、1/40縮尺を使用した。遺跡全測図は完掘個別遺構図をもとに作成した。

写真撮影は調査の各段階に応じて随時行い、白黒35mm判、カラーリバーサル35mm判、デジタルカメラを使用した。

調査の経過

調査は平成19年1月4日から平成19年2月6日まで行った。12月下旬に現地にて調査区の確認を行い、1月4日から重機による表土除去作業を開始した。

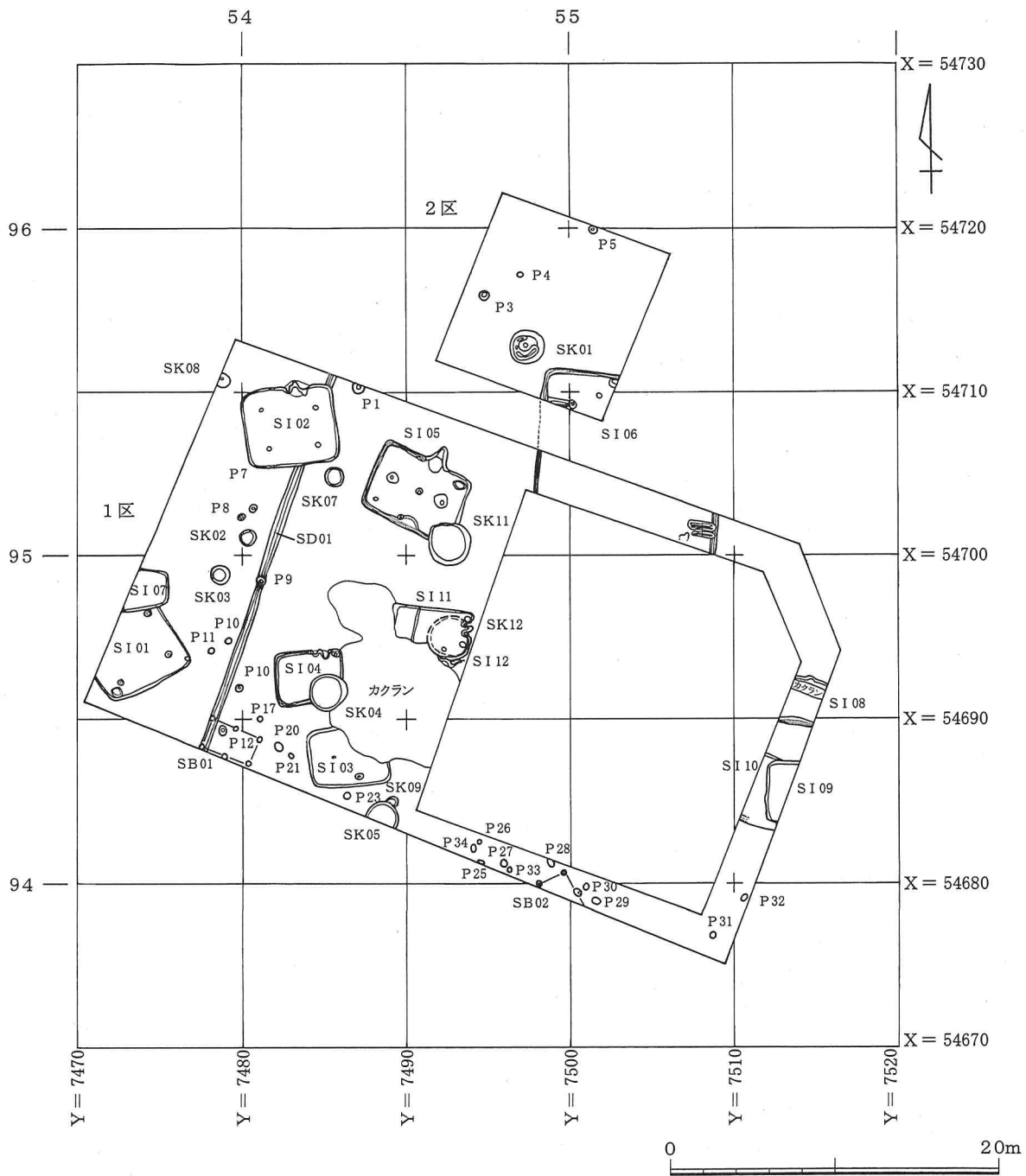
調査は倉庫建設基礎部分（1区）と浸透槽建設部分（2区）の2箇所の調査区で、1区の西部から表土除去を進め、遺構確認作業も後を追って行った。1区からは古墳時代、平安時代の竪穴住居跡12軒と土坑9基、掘立柱建物跡2棟、溝1条その他小ピット数基が検出された。2区からは古墳時代の竪穴住居跡1軒と土坑1基、小ピットが検出された。1月11日から1区の竪穴住居跡の遺構調査に入った。1月26日にはS I 07号住居跡までの掘り込みがほぼ終了した。1月31日から土坑の掘り込みを開始するとともに残りの竪穴住居跡の調査も行った。2月5日までにはすべての遺構の掘り込み調査が終了し、2月6日に遺構図面をすべて終了し現地における調査を終了した。

4. 基本土層

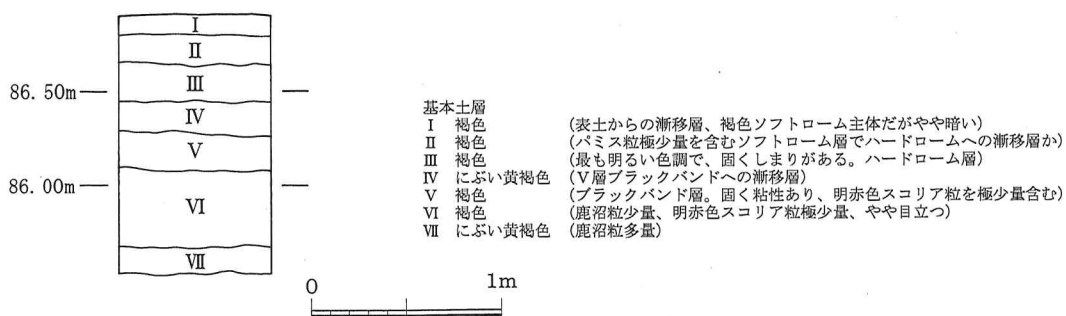
基本土層は、1区の北西部のP1の南壁を幅1.6m、確認面から深さ1.6mまで掘り下げて記録した。I層は表土からの漸移層、II層はパミス粒を極少量含むソフトローム層である。III層は褐色のハードローム層、IV層は鈍い黄褐色のハードローム層、V層はブラックバンド層である。VI層は鹿沼粒を少量含む褐色ローム層で、VII層は、鹿沼粒を多量に含むにぶい黄褐色土層である。

〈参考文献〉

- 栃木県教育委員会（財）とちぎ生涯学習文化財団
2001『権現山遺跡・百目鬼遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告書第257集
- 栃木県教育委員会（財）栃木県文化振興事業団
1999『東谷・中島地区遺跡群 NO. 1』栃木県埋蔵文化財調査報告書第229集
- 栃木県教育委員会（財）栃木県文化振興事業団
1996『西赤堀遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告書第178集
- 栃木県教育委員会（財）栃木県文化振興事業団
1999『杉村北遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告書第221集
- 栃木県教育委員会（財）とちぎ生涯学習文化財団
2003『東谷・中島地区遺跡群3』栃木県埋蔵文化財調査報告書第274集
- 宇都宮市教育委員会 2005『立野遺跡』A地区



第3図 遺跡全体図 (1:400)



第4図 基本土層

II 遺構と遺物

本調査区内からは、竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡2棟、土坑10基、小ピット25基、溝1条が検出されている。時期別には、古墳時代中期の住居跡が1号住居跡、古墳時代後期の住居跡が2・3・4・6・9・11・12号住居跡の7軒、古墳時代の土坑は1・4・11・12号土坑、27号ピットも古墳時代の小ピットである。平安時代の竪穴住居跡は5・8号住居跡、平安時代の土坑は3号土坑である。掘立柱建物跡、その他の土坑、小ピットは時期が不明である。

1. 竪穴住居跡

S I-01 (第5図、図版2)

位置 X=94、Y=53 **重複** S I 07と重複しS I 07に北西隅部を掘り込まれている。 **平面形状・規模** 5.04×5.65mの方形で、南東壁側を正面と考えると主軸はN-29°-Wである。 **覆土** 2層の自然堆積。 **壁** 残存高10cm **床** 住居跡東側半分にはやや硬化した床面が残存しており、西側は床の硬化面が削平されている。 **柱穴** P 1～3は主柱穴で径0.35～0.4m、深さ0.6～0.7m。P 4～7は床面を掘り方まで下げて確認されたので、住居跡よりも古いか、住居跡の古い段階の柱穴と考えられる。P 8は覆土の状況から見て住居跡よりも新しいピットの可能性がある。 **周溝** なし **出土遺物** 住居跡南東隅寄りの床面からほぼ完形に復元できる土師器の壺(2)、(3)、甕(4)と土師器の高杯の坏部がほぼ正位の状態で出土している。

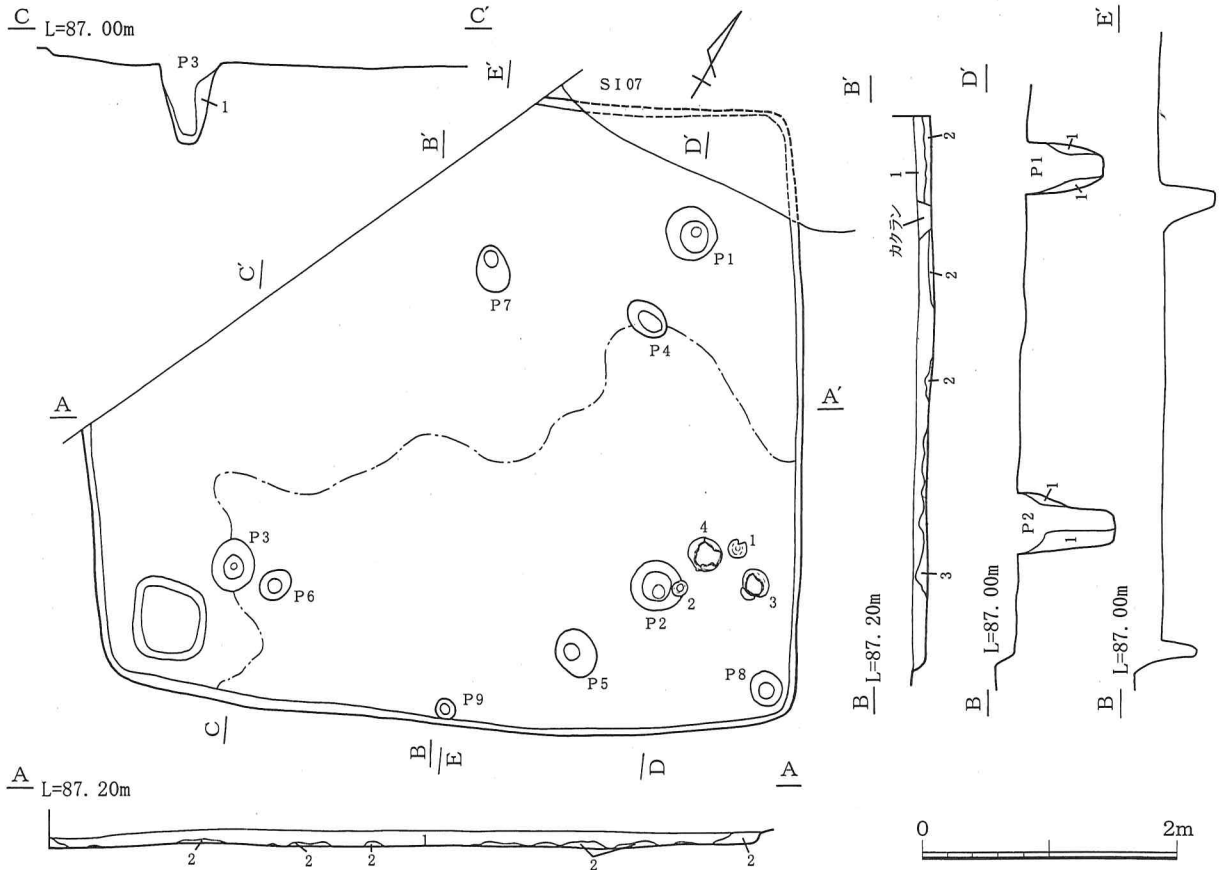
第2表 SI01出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 高杯	口径14.5 底径 器高	坏部外面ミガキ調整。	外: 浅黄橙色 内: 浅黄橙色	石英粒、角閃石を含む細砂粒 やや不良	床 脚部欠損	SI01No.3 内外面摩耗
2	土師器 壺	口径10.8 底径3.2 器高10.5	口縁部外面縦方向ミガキ調整。体部ミガキ調整。	外: 浅黄橙色 内: 浅黄橙色	石英、角閃石を含む微砂粒 やや不良	床 口縁部一部欠損	SI01No.1
3	土師器 壺	口径11.8 底径 器高	口縁部外面縦方向ミガキ調整。胴部外面斜方向ミガキ調整。	外: 浅黄橙色 内: 浅黄橙色	角閃石を含む微砂粒 やや不良	床 胴部30%欠損	SI01No.4 底部摩耗
4	土師器 甕	口径15.2 底径5.7 器高23.5	胴部外面縦位ヘラケズリ後横方向ヘラナデ。胴部下端横方向ヘラケズリ。	外: にぶい橙色 内: にぶい橙色	長石・石英を含む微砂粒多量 やや不良	床 50%	SI01No.2 内底面に付着物

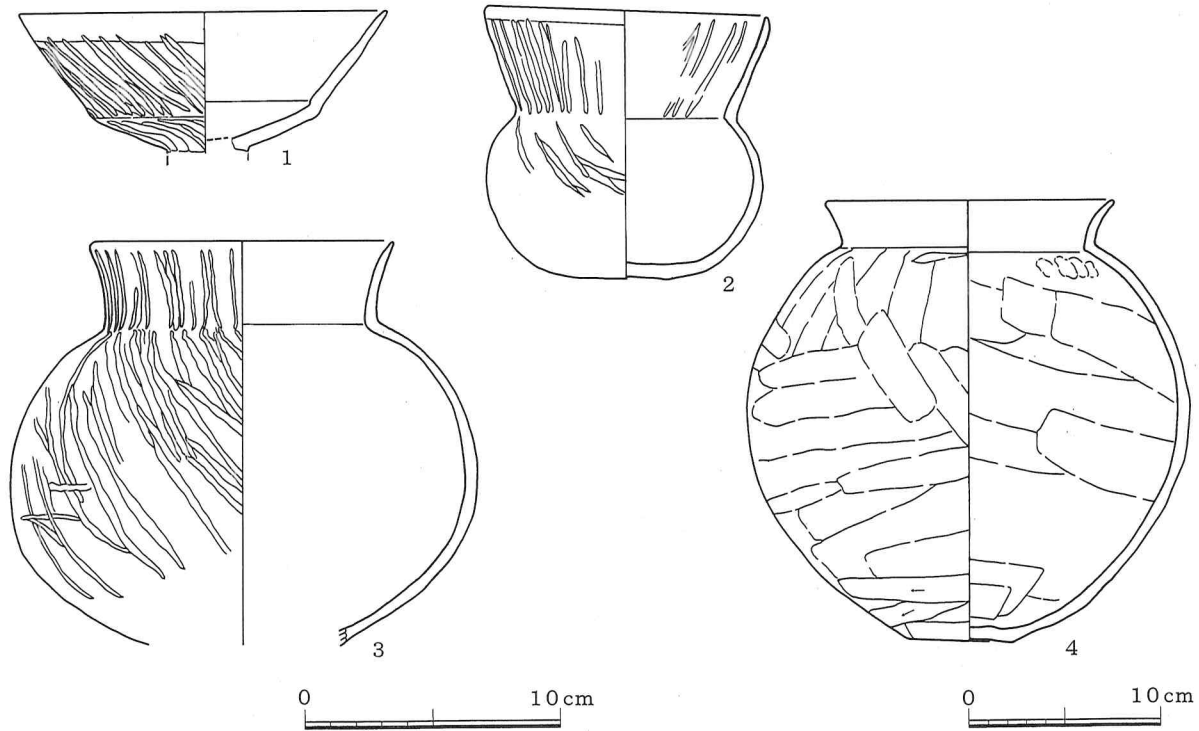
S I-02 (第7図、図版2)

位置 X=95、Y=54 **重複** なし **平面形状・規模** 4.90×5.70mの方形で、主軸N-6°-W。 **覆土** 3層の自然堆積。 **壁** 残存高45cm **床** ほぼ全体に硬化している。床下の掘り方は比較的メリハリがあり、4本柱の内側に掘り方の深い部分が3箇所掘り込まれている。 **柱穴** P 1～4は主柱穴で径0.15～0.30m、深さ0.50～0.65m。 **周溝** なし **カマド** 北壁中央やや東よりの位置にあり、袖部最大幅1.4m、袖部奥行き0.46m、燃烧室幅0.6m、燃烧室奥行き0.64mを測る。燃烧室内の袖部内壁面から奥壁面にかけて粘土を貼り付けて構築している。 **出土遺物** 3の土師器坏は床面付近から出土している。他の土師器坏・甕は覆土中から出土している。その他に覆土からは編み物石が5点(長さ13.2～16.1cm、重量255.58～710.08g)出土している。

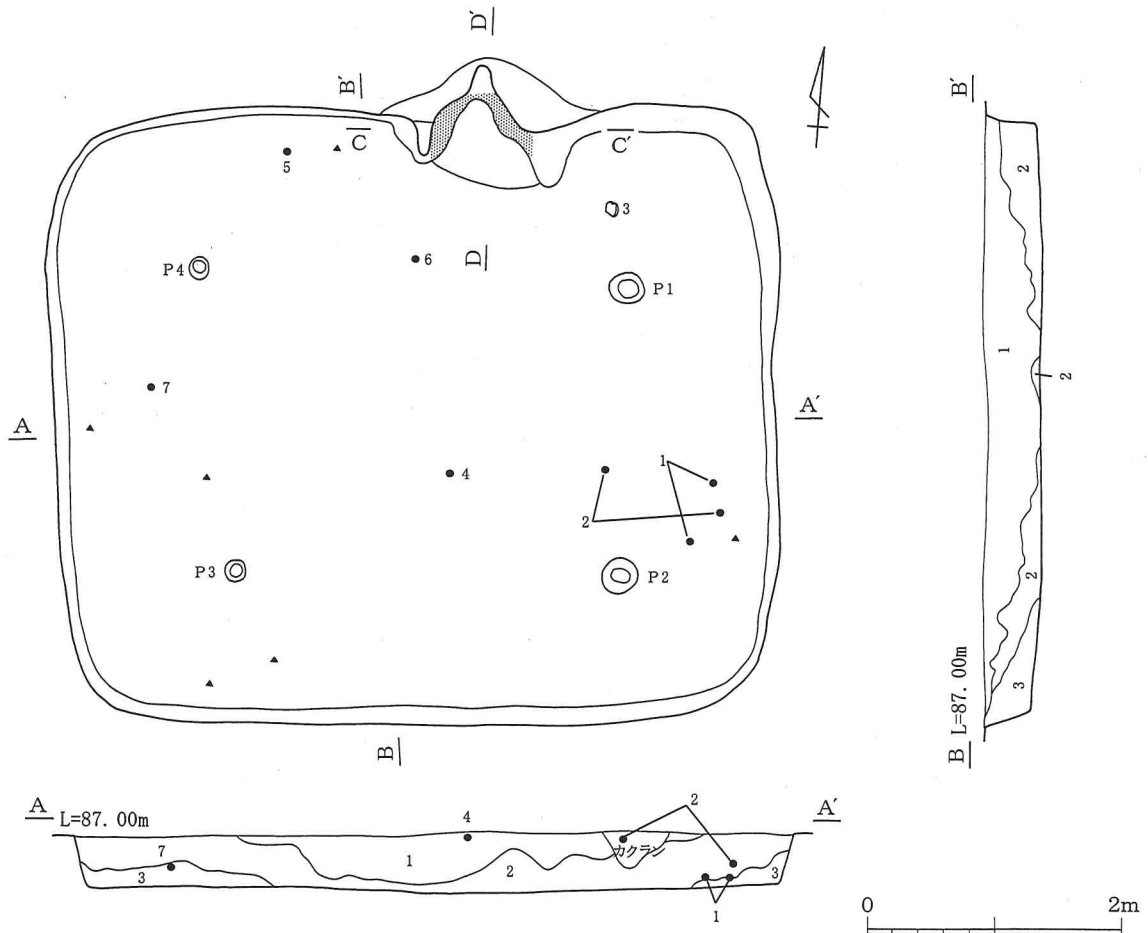


S I-01
 第1層 極暗褐色 (ローム粒子少量、赤色微粒極少量、ややしまりあり)
 第2層 褐色 (固くしまりあり床面か)
 第3層 極暗褐色 (褐色土少量、ローム粒子少量、ややしまりあり)

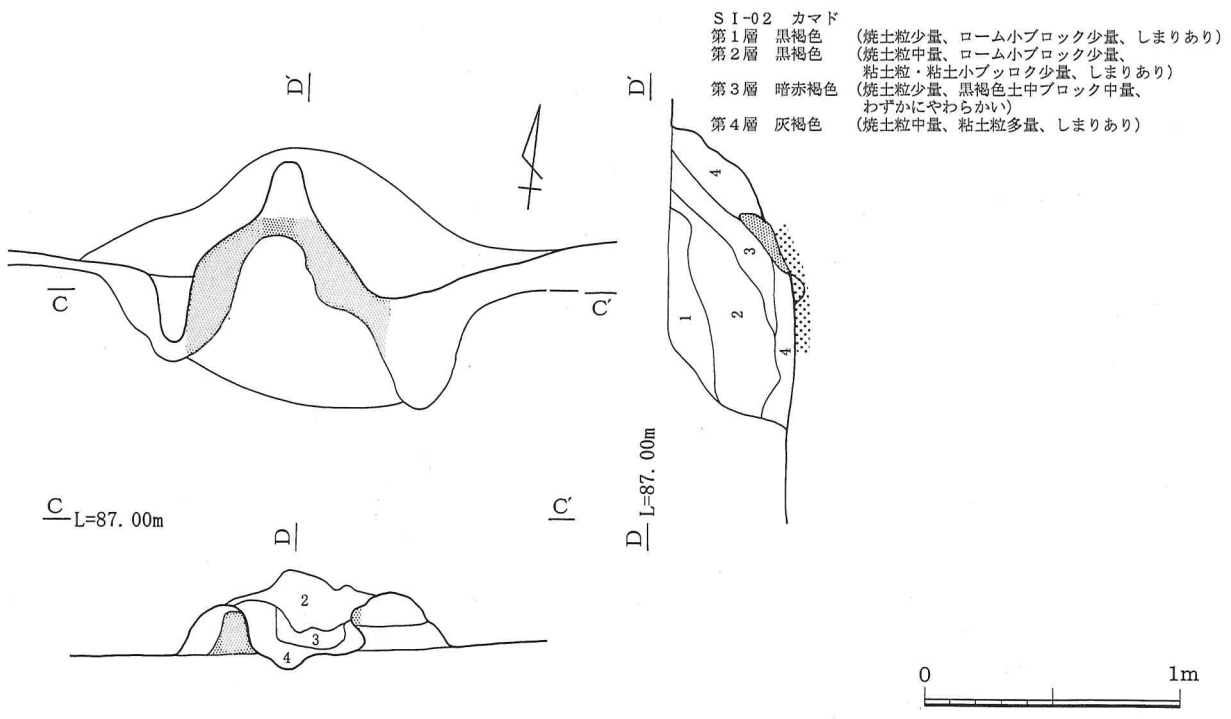
S I-01P1・2・3柱穴掘り方
 第1層 灰褐色 (黒色土とロームブロック混じり、しまりあり)



第5図 S I 01

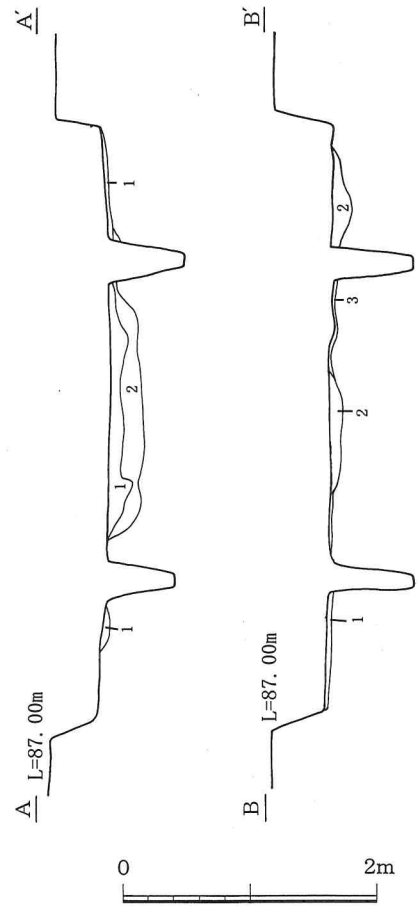
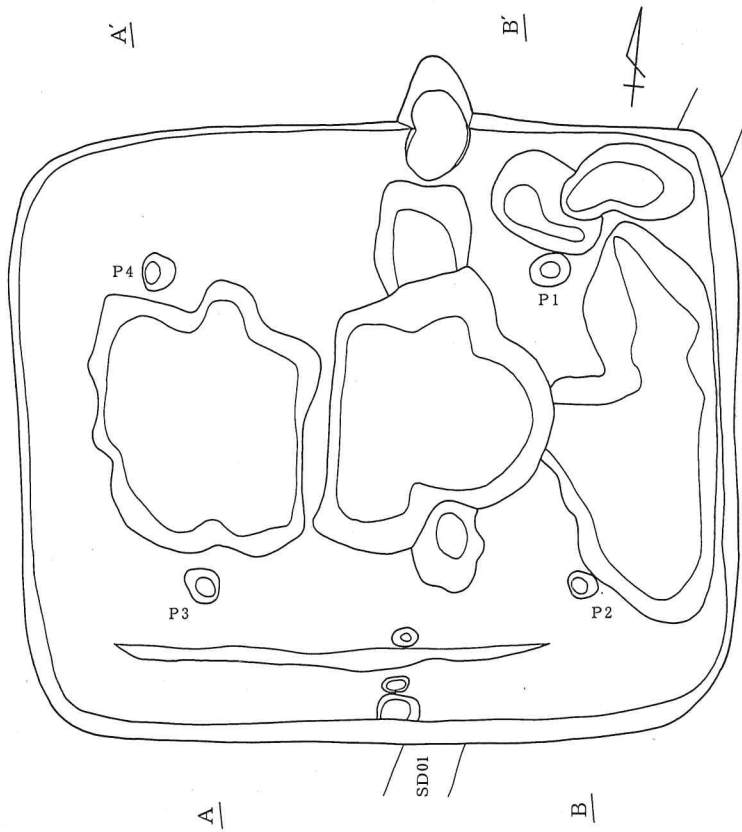


- SI-02
 第1層 黒褐色 (ローム粒子中量、やややわらかい)
 第2層 黒褐色 (ローム粒子多量、ローム中ブロック (2cm大) 少量、埋め戻し土か、やややわらかい)
 第3層 黒褐色 (ローム粒子多量、ローム小ブロック (1cm以下) 中量、やわらかい)

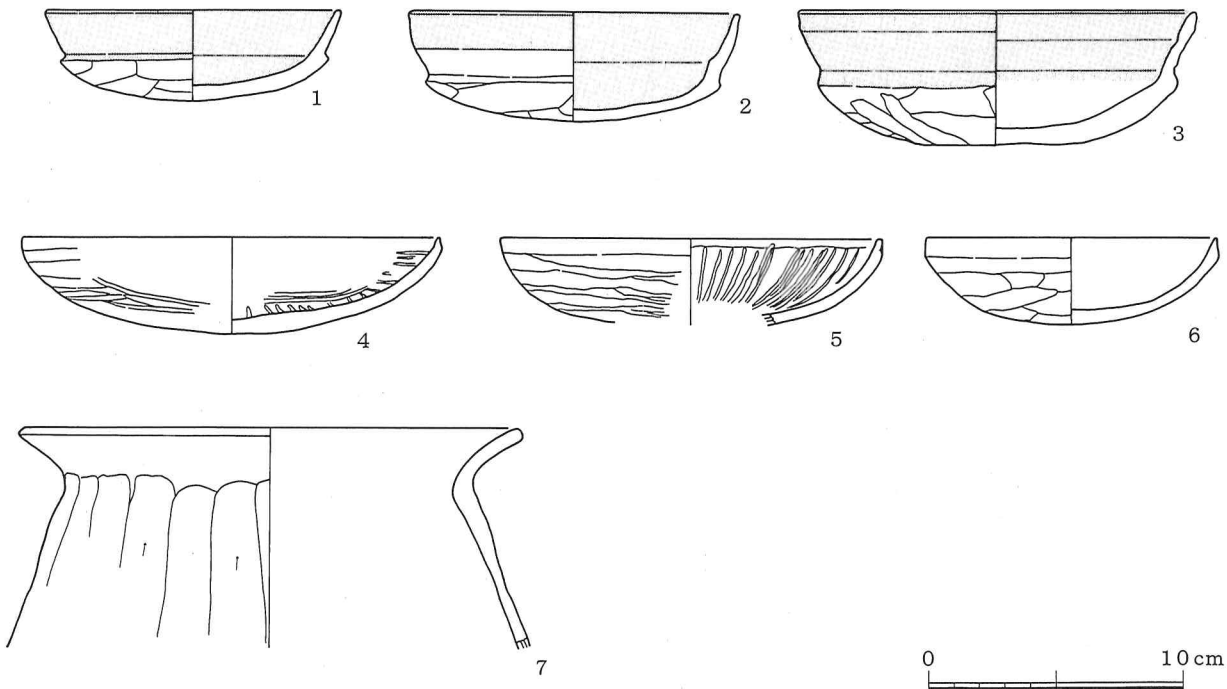


第6図 SI02 (1)

掘り方



- SI-02 掘り方
 第1層 灰黄褐色 (ロームブロック30~40mm多量、しまりあり)
 第2層 灰黄褐色 (ロームブロック30~40mm多量、しまりなし)
 第3層 赤褐色 (黒色土と混じり合い硬質となる)



第7図 SI02(2)

第3表 SI02出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 坏	口径11.6 底径 器高3.6	底部ヘラケズリ。内外面黒色処理。	外:浅黄橙色 内:黒色	白色極細粒 良好	床面直上 80%	SI02No.17、20
2	土師器 坏	口径13.0 底径 器高4.4	底部ヘラケズリ。内面〜口縁部外面 黒色処理。	外:浅黄橙色 内:黒色	白色微粒少量 良好	覆土〜床面 40%	SI02No.19、21
3	土師器 坏	口径15.6 底径 器高5.3	底部ヘラケズリ。内面〜口縁部外面 黒色処理。	外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	微砂粒 良好	覆土〜床面 40%	SI02No.31
4	土師器 坏	口径16.6 底径 器高3.8	体部〜底部ヘラケズリ後ミガキ調 整。内面丁寧なミガキ調整。	外:橙色 内:橙色	微砂粒少量 普通	覆土〜床面 33%	SI02No.15、フク 土
5	土師器 坏	口径15.0 底径 器高	内外面ミガキ調整。	外:橙色 内:橙色	角閃石、微砂粒 良好	覆土〜床面 15%	SI02No.26
6	土師器 坏	口径11.5 底径 器高3.4	体部〜底部外面ヘラケズリ。	外:橙色 内:橙色	砂粒ほとんど含 まない やや良好	覆土〜床面 15%	SI02No.23、24
7	土師器 甕	口径20.0 底径 器高	胴部外面縦方向ヘラケズリ、内面ナ デ調整。	外:褐色 内:橙色	角閃石を含む細 粒、灰色礫 普通	覆土〜床面 口縁〜胴部25%	SI02No.12、16

S I-03 (第8図、図版2)

位置 X=94、Y=54 重複 なし 平面形状・規模 3.70×4.90mの方形で、主軸はN-8°-W。覆土 2層の自然堆積。壁 残存高30cm。床 南西・南東隅と北壁沿い、P2付近を除いて硬化している。掘り方は壁沿いの部分の掘り込みが深くなっている。柱穴 主柱穴はP1の1箇所、対応する主柱穴は攪乱によって壊されているものと見られる。P1は径0.18m、深さ0.46m。P2の規模は径0.50m、深さ0.28mで、床面精査段階で柱痕は不明瞭で、抜き取り後の再堆積土が詰まっている様子であった。入り口施設 P2を出入り口ピットと捉えれば南壁際のやや東寄りの位置にある一本柱の梯子状施設と推測される。周溝 なし カマド 攪乱によって壊されていると思われる。出土遺物 遺物は極小なく、1・2の土師器の甕が覆土から出土している。

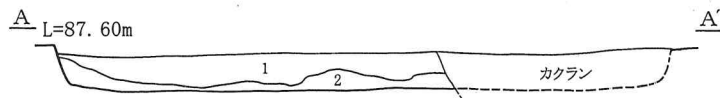
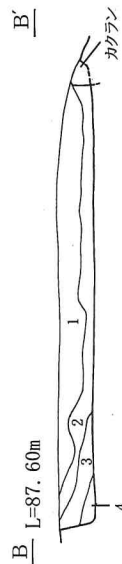
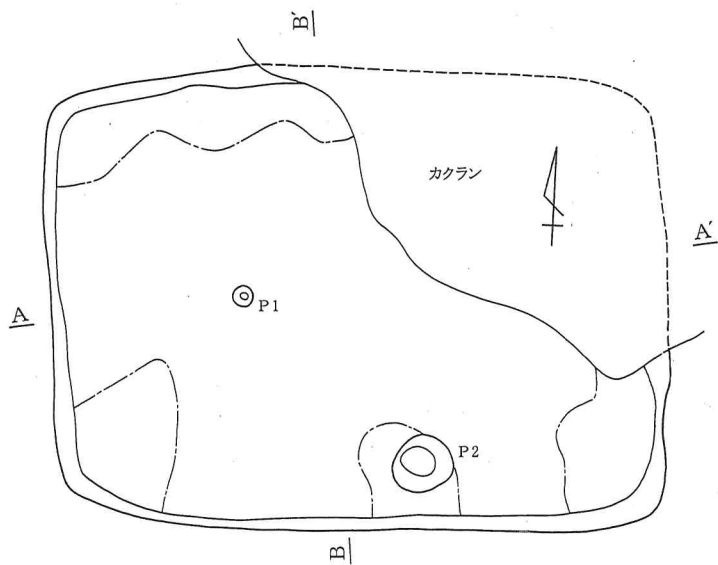
第4表 SI03出土遺物

[] 残存値、() 推定値

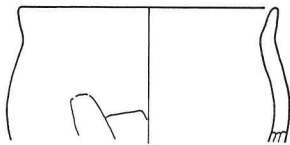
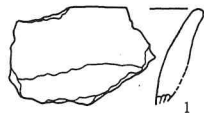
No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 甕	口径 底径 器高	口縁部ヨコナデ。	外:浅黄橙色 内:浅黄橙色	石英粒、角丸灰 色岩片礫	覆土〜床面 口縁部小破片	SI03フク土
2	土師器 甕	口径10.6 底径 器高	胴部外面ヘラケズリ。	外:にぶい橙色 内:褐灰色	石英粒を含む細 砂粒 良好	覆土〜床面 破片	SI03フク土

S I-04 (第9図、図版3)

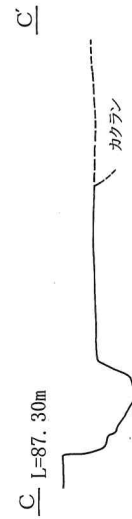
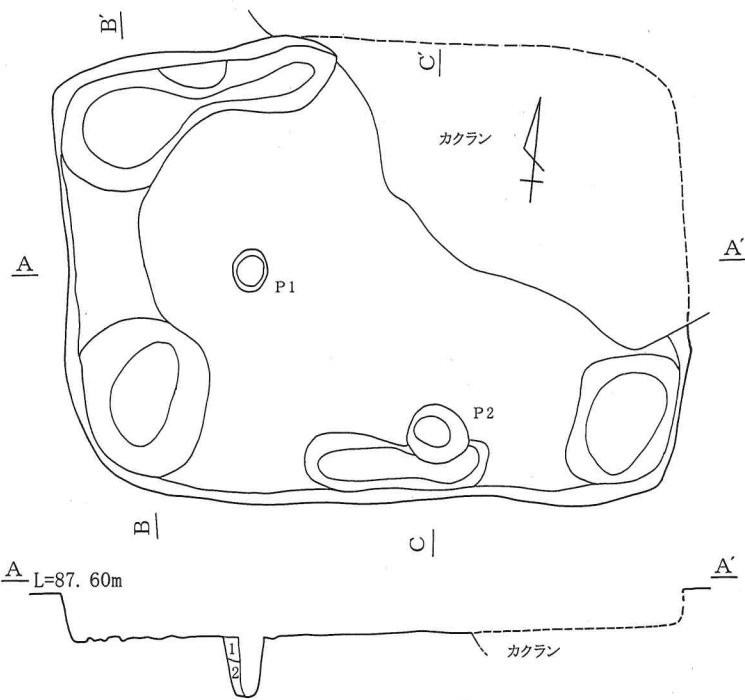
位置 X=94、Y=54 重複 SK04と重複し、SK04の上部を掘り込んで床面を構築している。平面形状・規模 3.22×4.06mの方形で、主軸はN-4°-W。覆土 3層の自然堆積。壁 残存高25cm。床 全体的にやや硬化している。カマドの東側の住居北東隅部の床面に深さ4〜5cmの浅いくぼみ穴が開いている。柱穴 なし
入り口施設 不明 周溝 カマドの西側の北壁から西壁・南壁にかけて、壁沿いに深さ1〜5cm、幅5〜20cmの規模で確認されている。カマド 北壁の北東隅に寄った位置から確認されている。袖部最大幅0.92m、袖部奥行き0.50m、燃烧室幅0.28m、燃烧室奥行き0.48mで、袖部は粘土を使用して構築している。出土遺物 1〜6の土師器の坏・甕が覆土から出土している。その他に編み物石が1点(長さ18.1cm、重量783.8g)覆土から出土している。



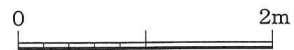
- SI-03
- 第1層 黒褐色 (ローム粒子多量、やややわらかい)
 - 第2層 黒褐色 (ローム粒子中〜少量、やややわらかい)
 - 第3層 黒褐色 (ローム粒子多量、やややわらかい、ローム小ブロック少量)
 - 第4層 黒褐色 (ローム粒子微量、やややわらかい)



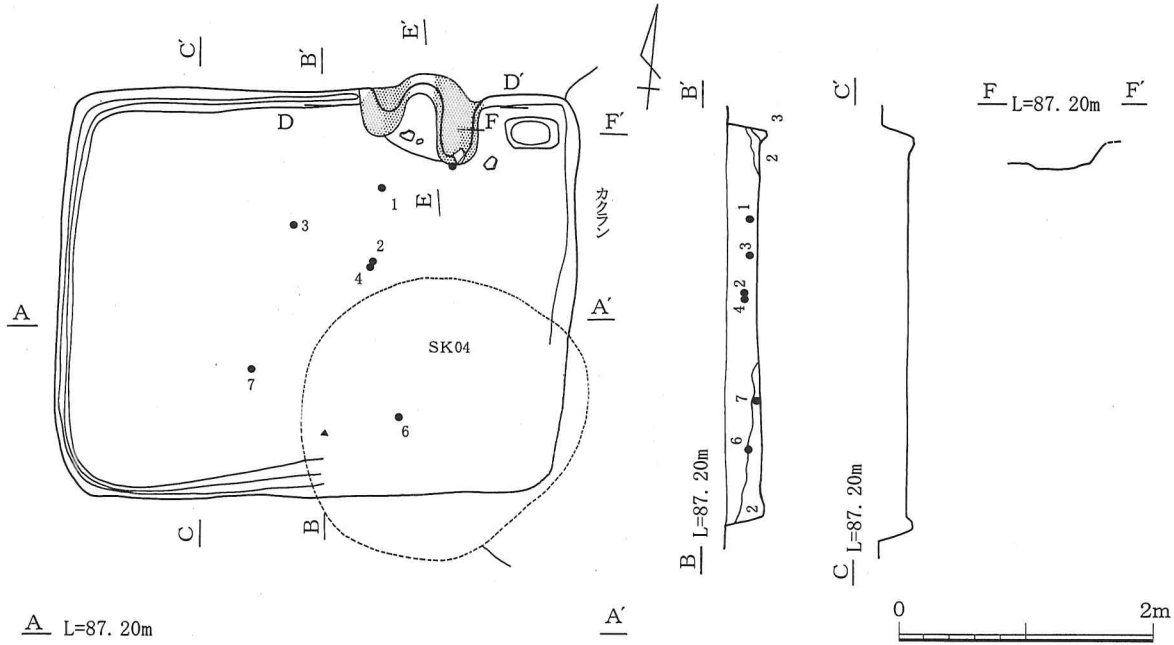
掘り方



- SI-03 P1掘り方
- 第1層 黒褐色 (黒褐色土小ブロック中量、しまりあり)
 - 第2層 褐色 (ローム主体しまりあり)



第8図 SI03

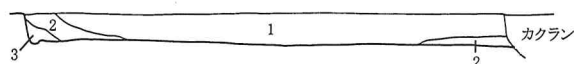


A L=87. 20m

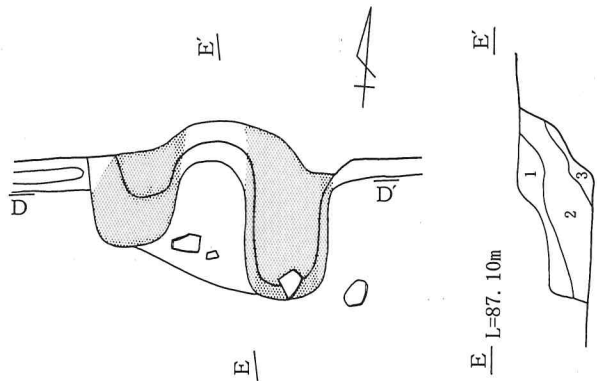
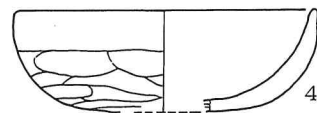
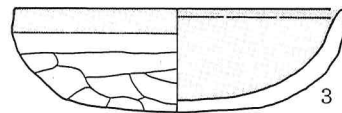
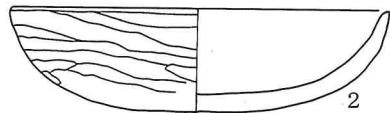
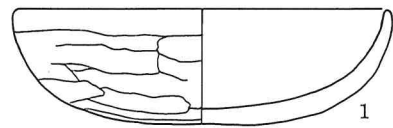
B L=87. 20m

C L=87. 20m

F L=87. 20m



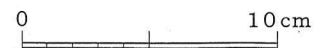
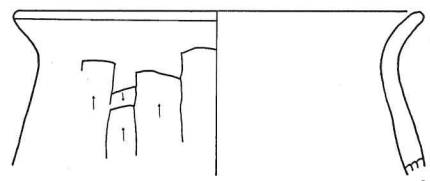
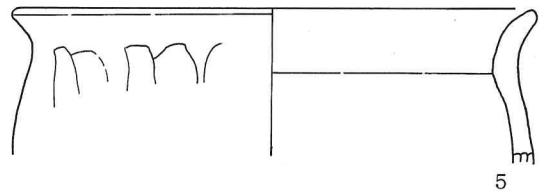
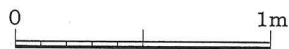
- SI-04
 第1層 黒褐色 (ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、しまりあり)
 第2層 黒褐色 (ローム粒子少量、しまりあり)
 第3層 黒褐色 (ローム粒子極少量、しまりあり)



D L=87. 10m

E L=87. 10m

- SI-04 カマド
 第1層 黒褐色 (焼土粒子少量、しまりあり)
 第2層 暗赤褐色 (焼土粒子中量、ローム小ブロック少量、しまりあり)
 第3層 暗赤褐色 (焼土粒子少量、粘土小ブロック少量、ローム小ブロック少量、しまりあり)
 第4層 暗褐色 (ローム小中ブロック多量、黒色土ブロック中量)



第9図 SI04

第5表 SI04出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 坏	口径(15.0) 丸底 器高4.6	体部外面ヘラケズリ。	外: 橙黄色 内: 浅黄橙色	赤褐色スコリア 粒少量 良好	覆土～床面 全体70%	SI04No.8、9
2	土師器 坏	口径(15.0) 丸底 器高4.0	体部外面丁寧なヘラケズリ。	外: 明黄褐色 内: にぶい褐色	微砂粒極少量 良好	覆土～床面 40%	SI04No.10
3	土師器 坏	口径(13.0) 丸底 器高4.1	体部外面ヘラケズリ。内面～口縁部 外面黒色処理。	外: 橙黄色 内: 浅黄橙色	石英細粒少量 良好	覆土～床面 33%	SI04No.14
4	土師器 坏	口径(12.0) 丸底 器高4.1	体部外面ヘラケズリ。	外: 浅黄橙色 内: 浅黄橙色	砂粒ほとんど含 まない 良好	覆土～床面 15%	SI04No.11
5	土師器 甕	口径 丸底 器高	胴部～底部ヘラケズリ、内面ナデ。 丸底。	外: にぶい褐色 内: にぶい褐色	石英細粒 普通	覆土～床面 底部片	SI04No.3、フク 土
6	土師器 甕	口径16.2 底径 器高	胴部外面縦方向ヘラケズリ。	外: にぶい褐色 内: にぶい褐色	石英含む細砂粒 多量 普通	覆土～床面 口縁部破片	SI04No.7、フク 土
7	土師器 甕	口径20.6 底径 器高	胴部外面縦方向ヘラケズリ。	外: 灰褐色 内: 灰褐色	砂粒多量 やや不良	覆土 口縁部破片	SI04フク土

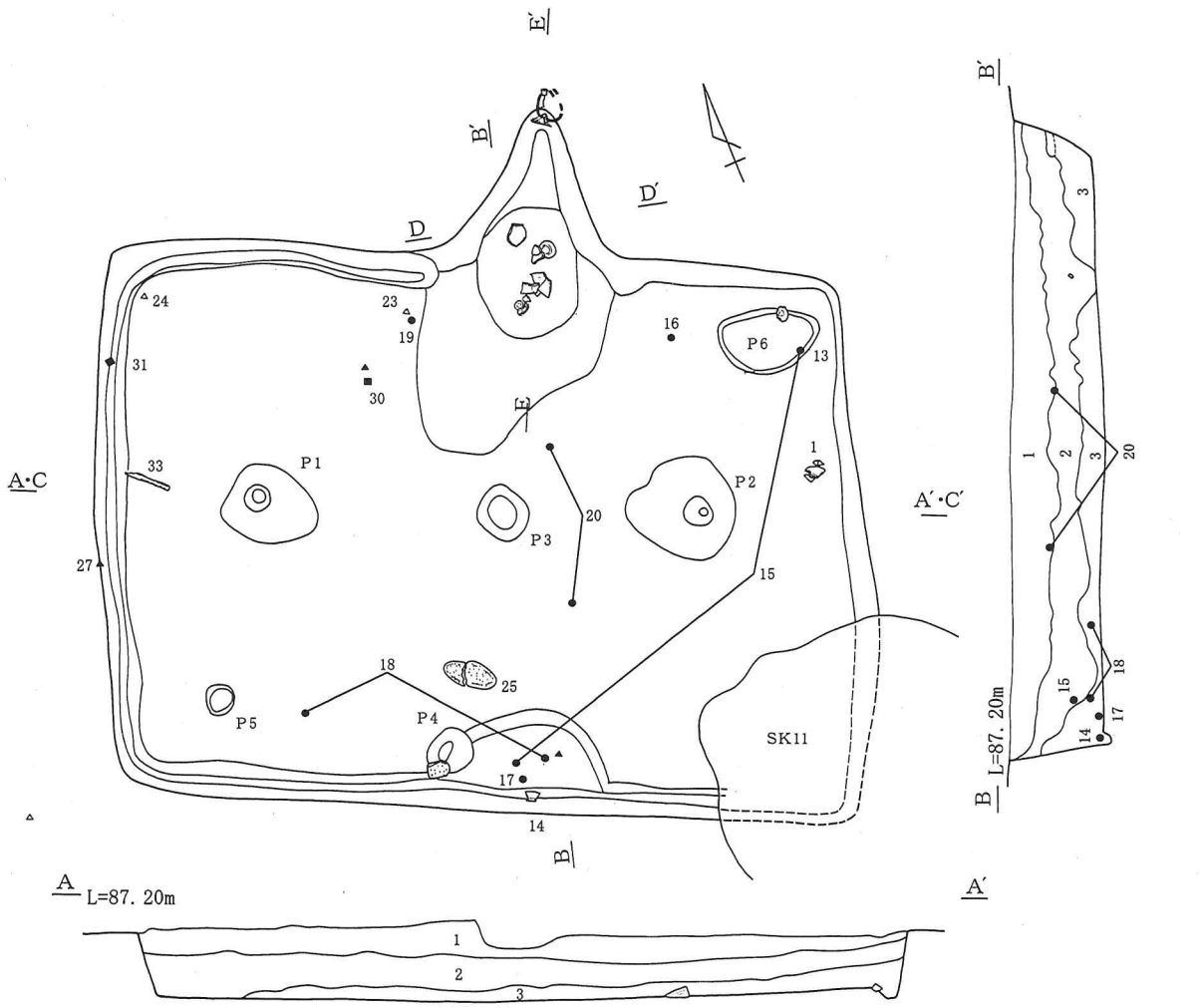
S I -05 (第10～13図、図版3)

位置 X=95、Y=54 重複 SK11と重複し、SK11の上部を掘り込んで床面を構築している。平面形状・規模 4.40×6.20mの長方形で、主軸はN-24°-E。覆土 3層の自然堆積。壁 残存高37cm 床 全体的にやや硬化している。柱穴 P1～3は主柱穴で径0.40～0.90m、深さ0.45～0.55m。入り口施設 P4が出入り口ピットと考えられる。P4は径0.35、深さ0.22m。周溝 北壁のカマドの西側から西壁・南壁にかけて、壁沿いに深さ3～9cm、幅約12cm前後の規模で確認されている。カマド 袖部の遺存状況は悪いが、燃焼室から煙道部にかけて出土遺物とともによく残存していた。出土遺物 カマドの燃焼室の底面から9と11の土師器の坏、21の甕が、煙道部からは22の土師器甕が設置された状況で出土している。住居跡西壁近くの床面からは鉄製品の鋸が出土している。P4近くの床面からは大型の自然石を利用した砥石が出土している。その他の土器・鉄製品・土製品は覆土中から出土している。その他に覆土からは編み物石が2点(長さ7.7～7.9cm、重量133.07～296.06g)出土している。

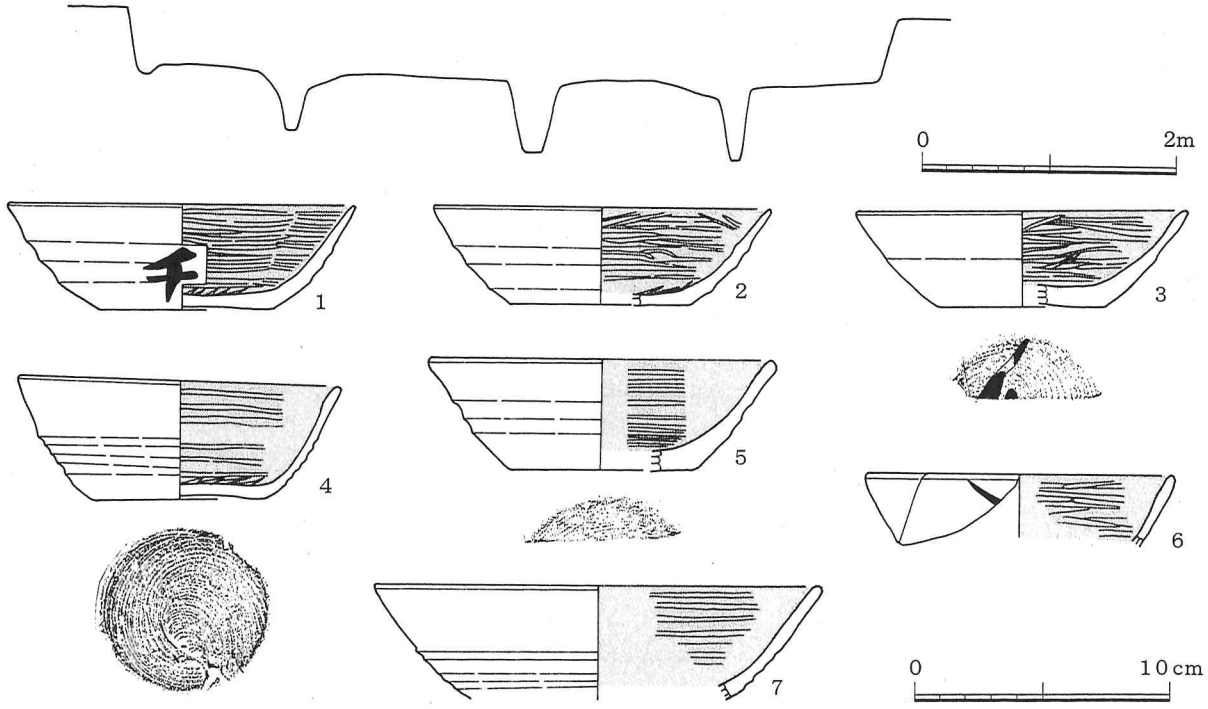
第6表 SI05出土遺物(1)

[] 残存値、() 推定値

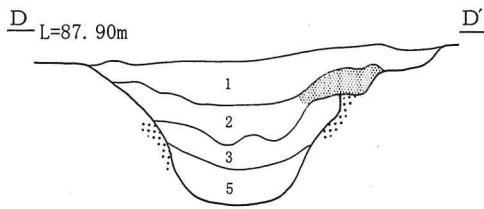
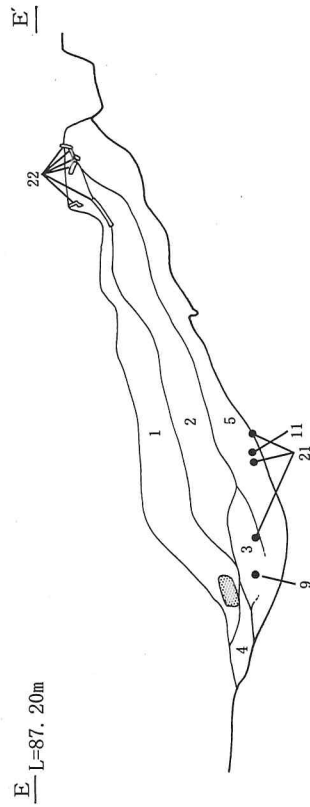
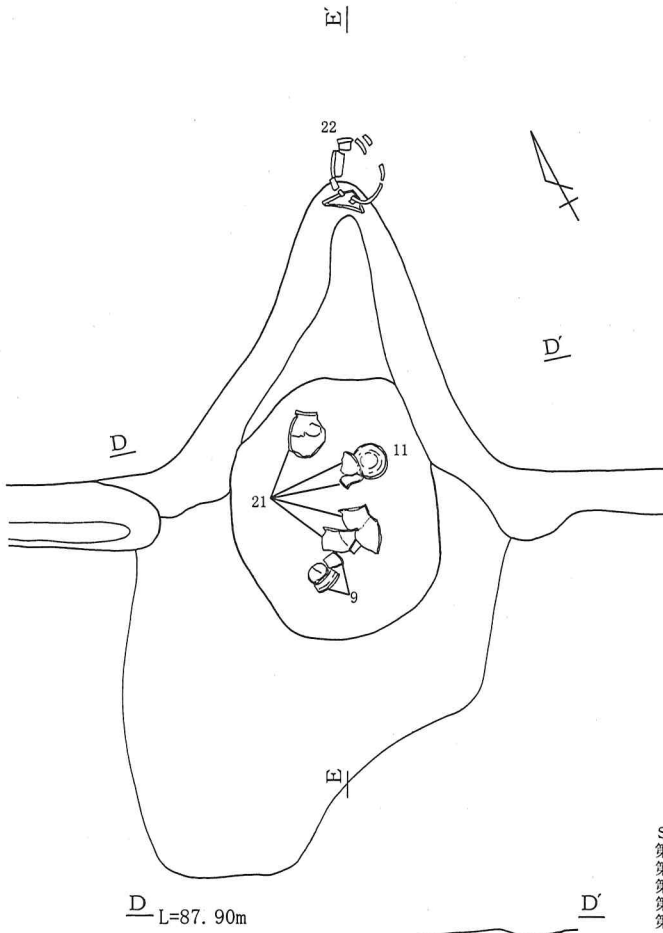
No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 坏	口径13.6 底径7.0 器高4.2	内面黒色処理後ミガキ。体部下端ヘ ラケズリ。底部回転ヘラケズリ。体 部に墨書文字「千」	外: 浅黄橙色 内: 黒色	角閃石を含む微 砂粒 良好	覆土 口縁部一部欠損	SI05No.22
2	土師器 坏	口径14.0 底径3.8 器高7.0	内面黒色処理後ミガキ。底部回転ヘ ラケズリか。	外: 黒色 内: 黒色	白色細砂粒 やや良好	覆土 40%	SI05フク土
3	土師器 坏	口径13.0 底径6.4 器高3.3	内面黒色処理後ミガキ。底部回転糸 切り。底部に墨書有り。	外: 淡明褐色 内: 黒色	石英、黒色細砂 粒を含む 良好	覆土 25%	SI05フク土
4	土師器 坏	口径12.6 底径6.6 器高4.9	内面黒色処理後ミガキ。底部回転糸 切り。クロ右回転。	外: 浅黄橙色 内: 黒色	微砂粒 良好	覆土 口縁部50%、他 ほぼ完形	SI05フク土
5	土師器 坏	口径13.4 底径7.0 器高4.4	内面黒色処理後ミガキ。底部回転糸 切り。	外: 浅黄橙色 内: 黒色	石英、黒色結晶 粒、微砂粒。 良好	覆土 底部25%	SI05フク土
6	土師器 坏	口径 底径 器高	内面黒色処理後ミガキ。体部外面に 墨書痕有り。	外: にぶい橙黄色 内: 黒色	石英、角閃石 普通	覆土 口縁部破片	SI05フク土
7	土師器 坏	口径17.6 底径 器高	内面黒色処理後ミガキ調整。	外: にぶい橙黄色 内: 黒色	石英細砂粒 普通	覆土 口縁部破片	SI05フク土



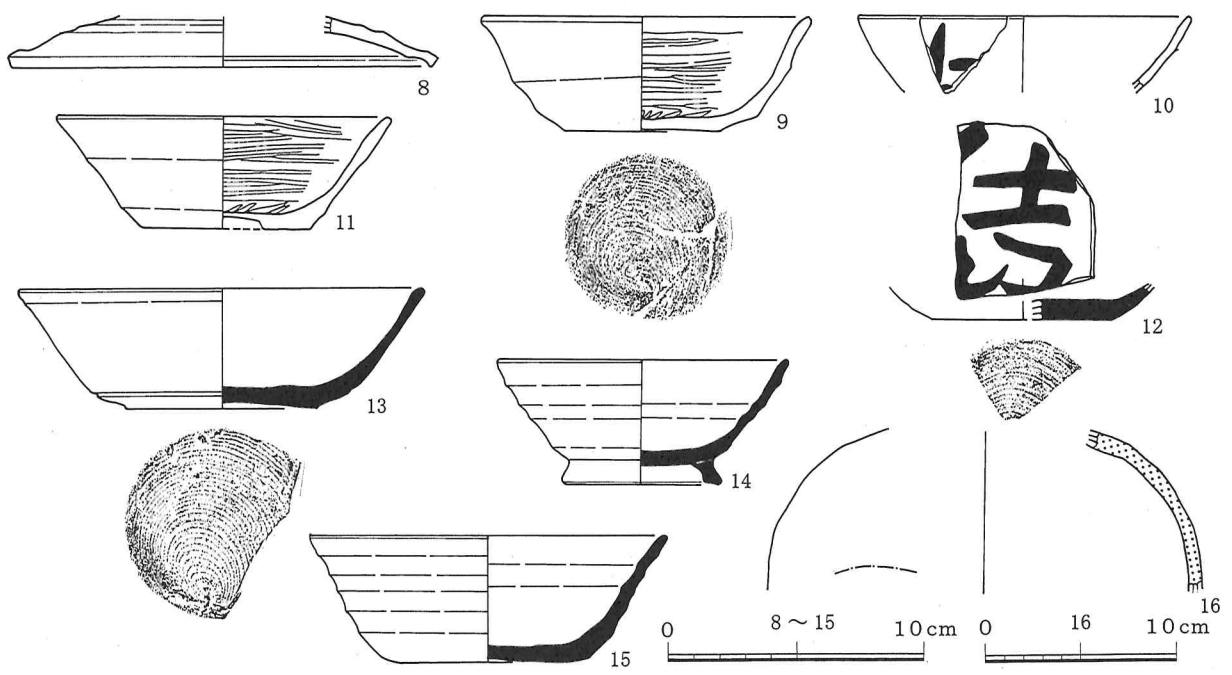
S I -05
 第1層 黒褐色 (ローム粒子少量、しまりあり)
 第2層 黒褐色 (焼土粒少量、白色粒少量、炭化物粒極少量、ローム粒子少量、しまりあり)
 第3層 黒褐色 (ローム粒子多量、焼土粒極少量)



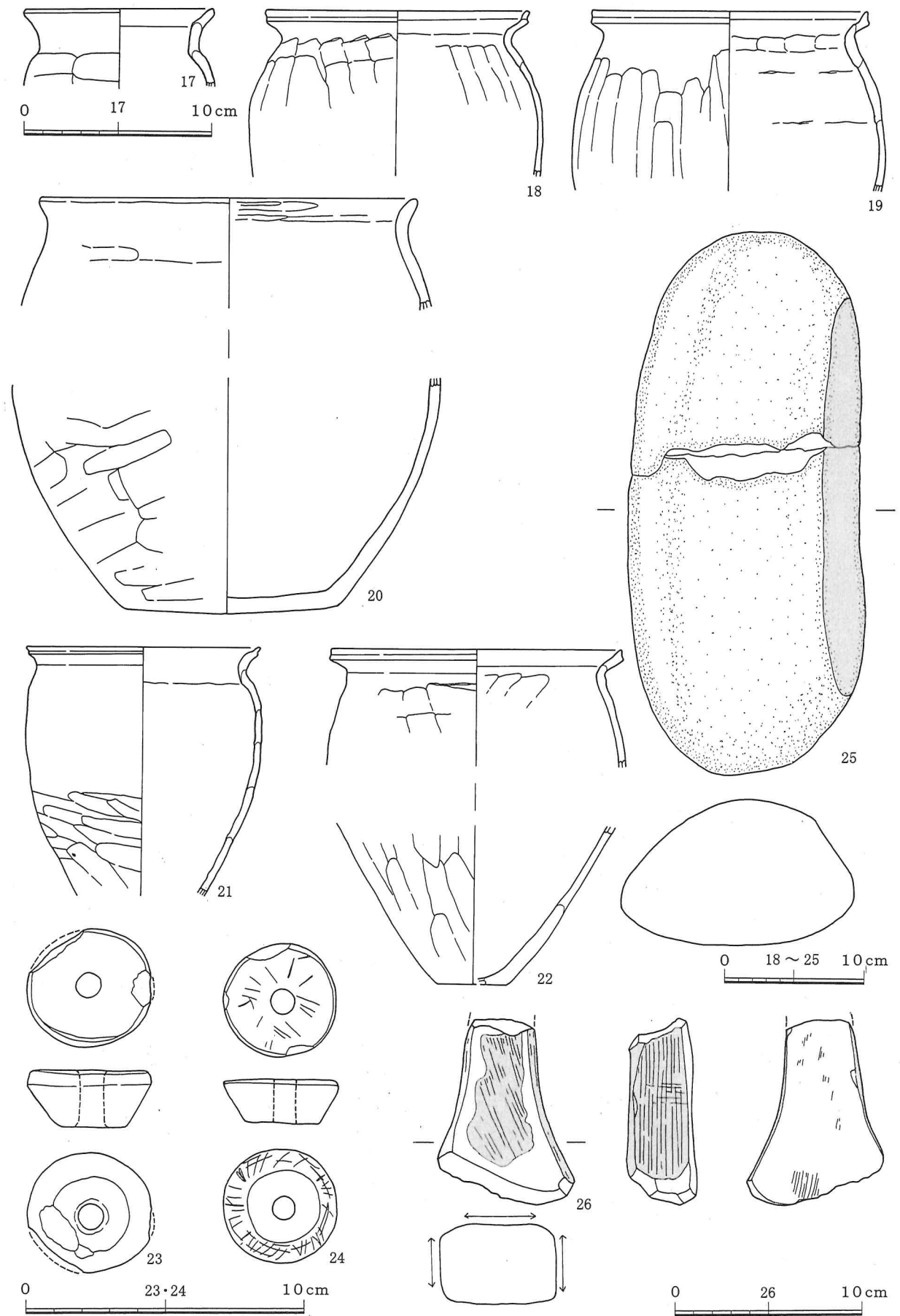
第10図 S I 0 5 (1)



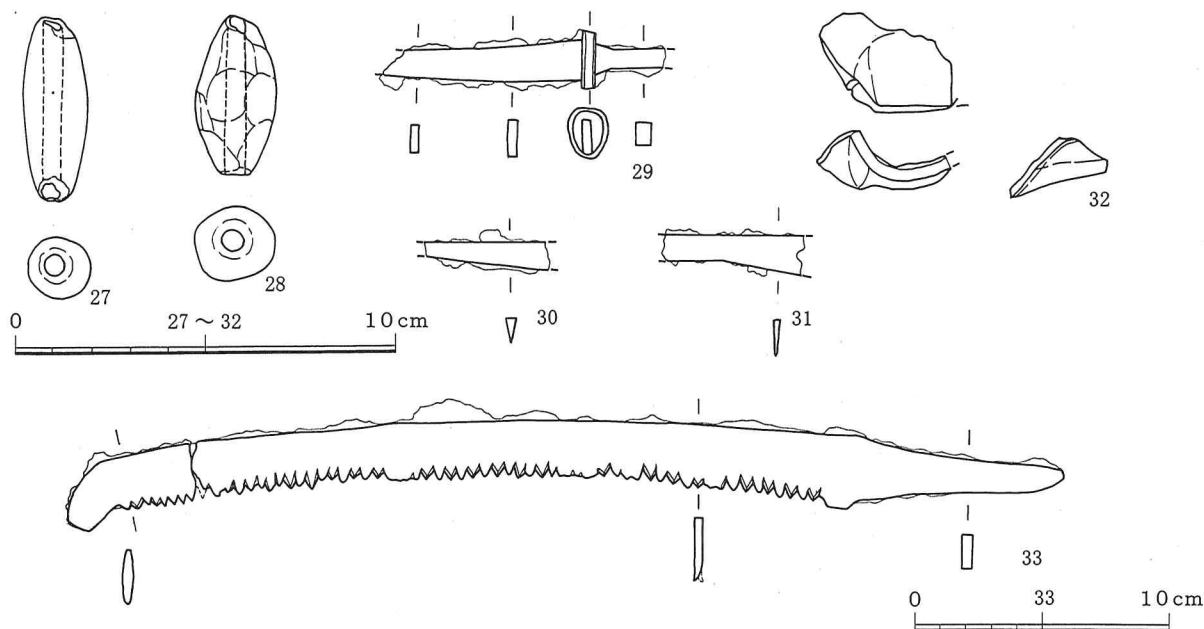
SI-05 カマド
 第1層 暗灰黄色 (焼土粒子まばらに含む、しまりあり)
 第2層 灰オリーブ色 (焼土粒子多量、しまりあり)
 第3層 灰オリーブ色 (焼土粒子少量、しまりなし)
 第4層 灰褐色 (焼土粒子・灰含む、しまりなし)
 第5層 黄褐色 (焼土粒子少量、しまりなし)



第11図 SI05 (2)



第12图 S I O 5 (3)



第13図 SI05(4)

第7表 SI05出土遺物(2)

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
8	土師器蓋	径17.0 底径 器高	天井部回転ヘラケズリ。	外:にぶい橙色 内:黒色	スコリア粒 普通	覆土 20%以上残存	SI05フク土
9	土師器坏	口径13.2 底径6.0 器高4.5	ロクロ整形。内面ミガキ調整。底部回転糸切り。ロクロ右回転。	外:橙色 内:橙色	微砂粒、スコリア やや不良	カマド覆土 全体の75%	SI05カマドNo.36
10	土師器坏	口径 底径 器高	体部外面に不明墨書文字有り。	外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	チャート粒を含む 普通	覆土 口縁部破片	SI05フク土
11	土師器坏	口径13.2 底径7.0 器高4.4	ロクロ整形。内面ミガキ調整。底部回転糸切り。	外:橙色 内:浅黄橙色	石英、長石小粒 含む 良好	カマド覆土 全体の80%	SI05カマドNo.34
12	須恵器坏	口径 底径 器高	底部回転糸切り。内底面に墨書文字。	外:灰色 内:灰色	白色微砂粒を含む 普通	覆土 底部片	SI05フク土 三龜産
13	須恵器坏	口径16.0 底径7.7 器高4.7	底部回転糸切り。ロクロ右回転。	外:灰色 内:灰色	長石礫を含む 普通	カマド 60%	SI05No.20、フク土 益子産
14	須恵器高台付坏	口径11.2 底径6.2 器高4.9	底部回転ヘラ切り離し後高台貼り付け。	外:灰色 内:灰色	長石砂粒多く含む 普通	完形	SI05No.8 益子産
15	須恵器坏	口径14.0 底径7.0 器高5.0	内外面ロクロナデ調整。底部回転糸切り。益子産。	外:灰色 内:灰色	長石礫を含む やや不良	覆土 20%	SI05No.10、20、 フク土
16	灰釉陶器長頸瓶	口径 底径 器高	胎土の悪い灰釉陶器、内面に黄白色の長石の吹き出し粒が見られる。	外:にぶい赤褐色 内:明オリーブ灰	長石小礫含む 良好	覆土 胴部破片	SI05No.18、23
17	土師器小型甕	口径10.0 底径 器高	胴部外面ヘラケズリ。	外:黒色 内:にぶい橙色	微細粒少量 良好	覆土 口縁部片	SI05No.9
18	土師器甕	口径19.0 底径 器高	胴部内外面縦方向ヘラナデ。	外:橙色 内:橙色	長石礫、石英微粒 普通	覆土 50%	SI05No.6、11
19	土師器甕	口径20.0 底径 器高	胴部縦方向ヘラケズリ。内面ナデ調整。	外:橙色 内:橙色	石英を含む、細砂粒 普通	覆土 50%	SI05No.31
20	土師器甕	口径 底径 器高	胴下半部ヘラケズリ、下端部ヘラナデ。口縁部内面ミガキ調整。	外:黒褐色 内:褐色	石英を含む微砂粒 普通	床直+覆土中 口縁部10%以下 胴部~底部25%	SI05No.3
21	土師器甕	口径17.0 底径 器高	胴下半部ヘラケズリ。	外:橙色 内:橙色	チャート礫、長石、石英粒 普通	覆土 底部欠損	SI05No.34、36

第8表 SI05出土遺物(3)

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
22	土師器 甕	口径11.0 底径2.5 器高	胴部縦方向ヘラケズリ。内面ヘラナ デ調整。	外: 燈色 内: 燈色	微細粒 良好	覆土	SI05No.31、32、 フク土
23	石製品 紡錘車	口径4.4 厚2.1 孔径0.8 重46.34g	凝灰岩製。			覆土 90%	SI05No.2
24	石製品 紡錘車	口径4.1 厚1.7 孔径0.8 重42.07g	上面と側面に線刻が見られる。滑石 製。			覆土 ほぼ完形	SI05No.1
25	石製品 砥石	長39.3 幅16.6 厚10.6 重12200g	大型楕円礫を使用した据え置き型の 砥石か。右側辺部が作業面。一部被 熱痕。粗粒安山岩製。			床 完形	SI05No.4
26	石製品 砥石	長9.5 幅7.4 厚3.9 重374.5g	雲母片岩製の砥石。表面の剥離が激 しい			覆土	SI05フク土
27	土製品 土錘	口径1.7 長4.2 孔径0.5 重11.14g	全体にナデ調整。	淡灰色	細砂粒を多量に 含む やや良好	覆土 完形	SI05フク土
28	土製品 土錘	口径2.1 長4.2 孔径0.6 重14.29g	全体にナデ調整。	明燈色	スコリアを含む 良好	覆土 完形	SI05No.1フク土
29	鉄製品 不明工具	長 [11.0] 幅1.6 重32.32g	中茎幅0.7、厚0.6、倒卵形の刃履き (径1.6~2.0、厚0.1)が残る。			覆土	SI05フク土
30	鉄製品 刀子	長 [4.9] 幅1.1 重5.61g	刃部片。			覆土	SI05鉄器No.2
31	鉄製品 刀子	長 [5.5] 幅1.5 重4.26g	刃部片。			覆土	SI05鉄器No.1
32	鉄製品 銚子	幅 [5.5] 厚0.5 重39.14g	注ぎ口部破片。			覆土	SI05フク土
33	鉄製品 鋸	長 [39.8] 幅2.9 重110.25g	刃部57刃。アセリあり。			覆土	SI05鉄No.3

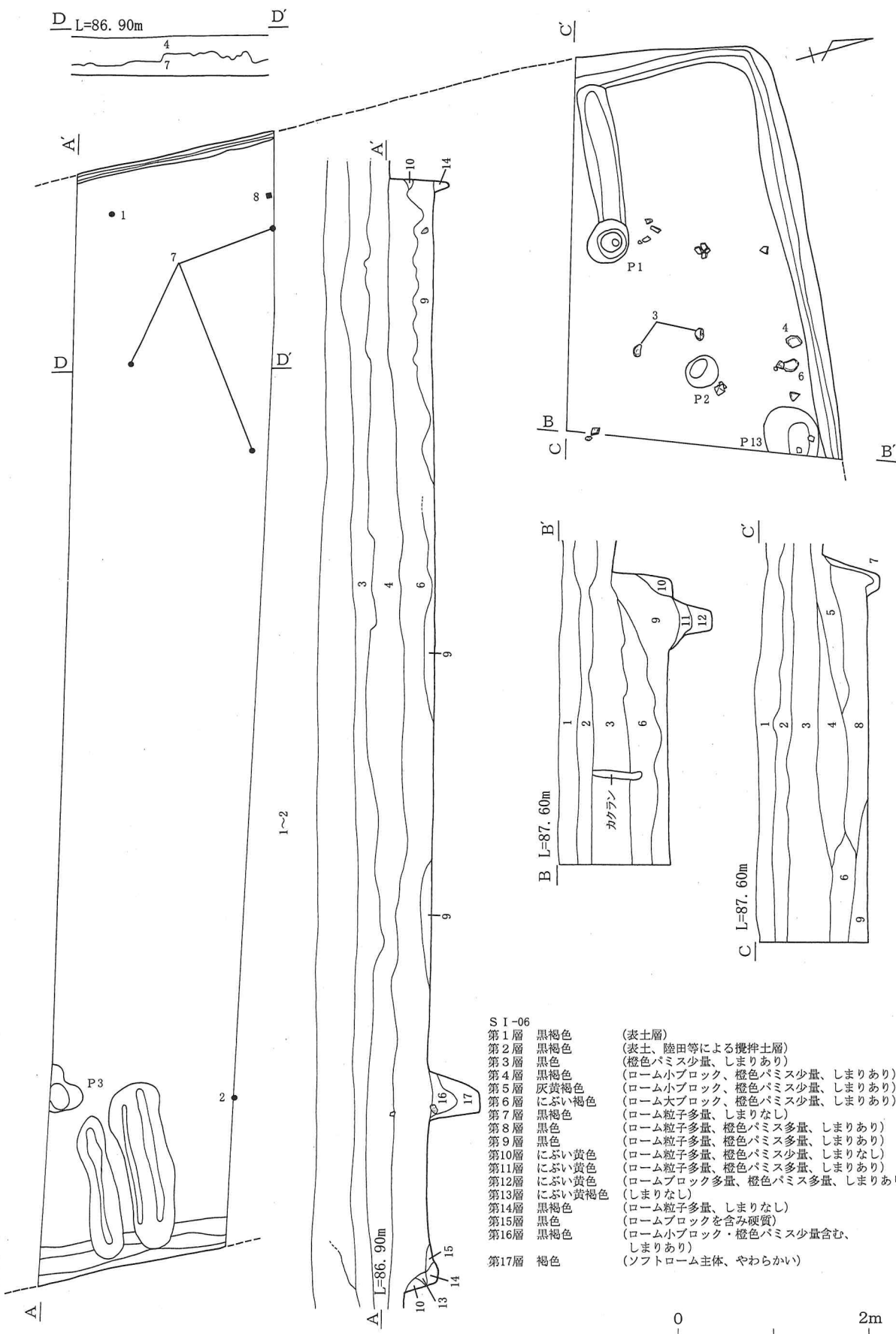
SI-06 (第14~16図、図版4)

位置 X=95、Y=55 重複 なし 平面形状・規模 調査範囲内では北西隅部と住居中央部を東西方向にトレンチを入れたように確認したのみで全体がとらえられないが、東西方向11.30m、南北方向10m以上である。主軸方向はN-24°-E。覆土 2~3層の自然堆積。壁 残存高62cm。床 確認範囲では全体に硬化している。柱穴 P1・3は支柱穴と推定され、径0.50m、深さ0.53~0.65m。P13は覆土中に粘土が堆積しており、カマドに関係するピットと推測される。P4~12は床下掘り方から確認されたピットで性格は不明である。周溝 深さ5~10cm、幅10~15cmで確認されている範囲では全周している。間仕切り溝 北西角部で西壁からP1をつなぐ位置に長さ1.3m、幅0.3~0.35mの間仕切り溝掘り方を確認している。他に床下の住居掘り方に残る間仕切り溝跡か根太圧痕が、北西隅部に7条、東壁と西壁に3条ずつ確認されている。カマド 調査範囲内では確認されていない。出土遺物 土器は覆土中から土師器の坏、高坏、甕、甌、壺がいずれも破片で出土している。7の甕は胴部にハケ目が施されている。鉄製品では覆土中から直刃鎌(8)が出土している。

第9表 SI06出土遺物(1)

[] 残存値、() 推定値

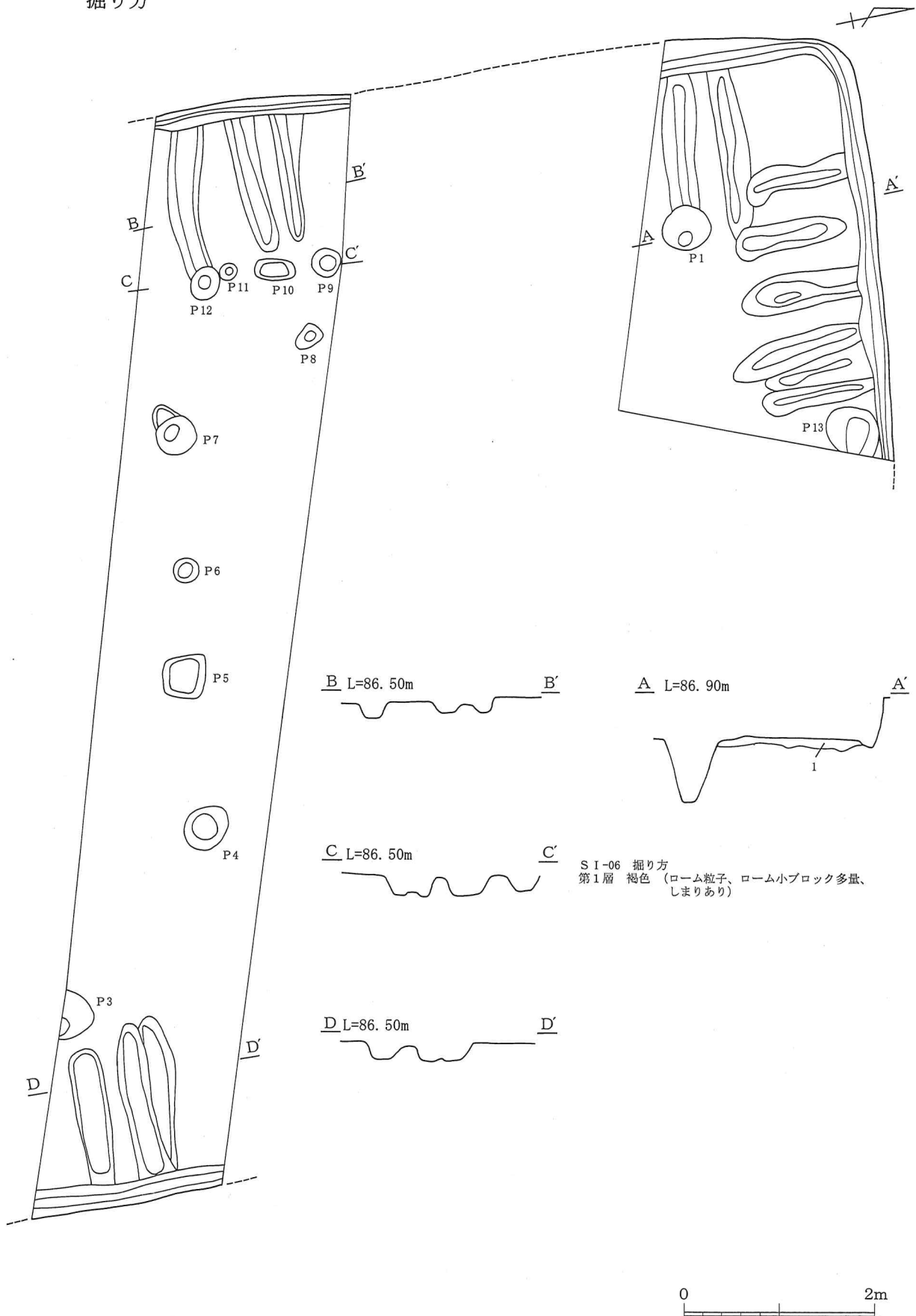
No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 坏	口径 (11.6) 丸底 器高5.3	体部~底部外面ヘラケズリ。内面ヨ コナデ。内面黒化	外: 褐灰色 内: 褐灰色	灰色小礫、角閃 石微量 良好	覆土 60%程度残存	SI06No.14、3 区、フク土



- S I -06
- | | | |
|------|--------|----------------------------|
| 第1層 | 黒褐色 | (表土層) |
| 第2層 | 黒褐色 | (表土、陸田等による攪拌土層) |
| 第3層 | 黒色 | (橙色パミス少量、しまりあり) |
| 第4層 | 黒褐色 | (ローム小ブロック、橙色パミス少量、しまりあり) |
| 第5層 | 灰黄褐色 | (ローム小ブロック、橙色パミス少量、しまりあり) |
| 第6層 | にぶい褐色 | (ローム大ブロック、橙色パミス少量、しまりあり) |
| 第7層 | 黒褐色 | (ローム粒子多量、しまりなし) |
| 第8層 | 黒色 | (ローム粒子多量、橙色パミス多量、しまりあり) |
| 第9層 | 黒色 | (ローム粒子多量、橙色パミス多量、しまりあり) |
| 第10層 | にぶい黄色 | (ローム粒子多量、橙色パミス少量、しまりなし) |
| 第11層 | にぶい黄色 | (ローム粒子多量、橙色パミス多量、しまりあり) |
| 第12層 | にぶい黄色 | (ロームブロック多量、橙色パミス多量、しまりあり) |
| 第13層 | にぶい黄褐色 | (しまりなし) |
| 第14層 | 黒褐色 | (ローム粒子多量、しまりなし) |
| 第15層 | 黒色 | (ロームブロックを含み硬質) |
| 第16層 | 黒褐色 | (ローム小ブロック・橙色パミス少量含む、しまりあり) |
| 第17層 | 褐色 | (ソフトローム主体、やわらかい) |

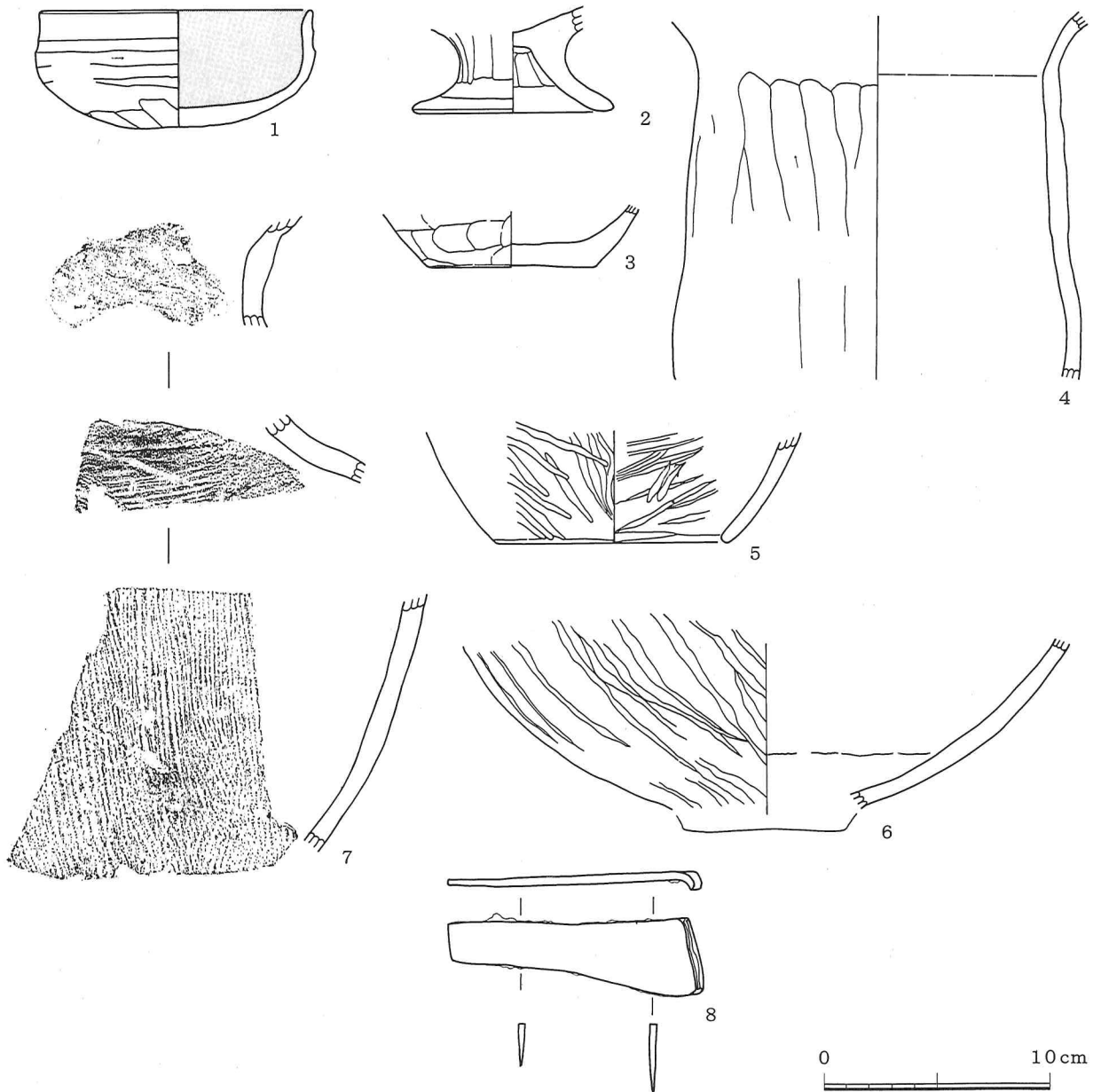
第14図 S I 06 (1)

掘り方



SI-06 掘り方
 第1層 褐色 (ローム粒子、ローム小ブロック多量、しまりあり)

第15図 SI06 (2)



第16図 S I O 6 (3)

第10表 SIO6出土遺物(2)

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
2	土師器 高坏	口径 底径9.0 器高	脚部外面へラケズリ。脚裾部ヨコナデ。坏部内面ミガキ調整。	外: 浅黄色 内: 浅黄色	長石細粒以外ほとんど含まない 良好	床 台面60%、坏部 20%	SI05No.61
3	土師器 甕	口径 底径7.1 器高	胴部下端・底部へラケズリ。内面へラナデ調整。	外: 灰褐色 内: にぶい橙色	石英、角閃石、 チャート、細砂粒 良好	床 底部片	SI06No.4、5
4	土師器 甕	口径 底径 器高	胴部外面へラケズリ、内面ナデ調整。	外: 橙色 内: 橙色	石英・角閃石細粒を含む微砂粒 普通	床 頸部～底部20%	SI06No.2
5	土師器 甕	口径 底径10.0 器高	内外面丁寧なミガキ調整。	外: 橙色 内: 橙色	角閃石、長石細粒 良好	覆土 底部片10%	SI06 3区フク土
6	土師器 壺	口径 器高 底径	底部外面ハケナデ後ミガキ。内面ナデ調整。	外: 浅黄色 内: 浅黄色	白灰色小礫 良好	覆土 底部片	SI06No.3
7	土師器 甕	口径 器高 底径	胴部外面ハケ調整。内面ナデ調整。	外: 橙色 内: 浅黄橙色	角閃石、石英、 細砂粒含む 良好	覆土 頸部・肩部・底部 破片	SI06No.21・31・38
8	鉄製品 鎌	長11.3 幅3.3 厚0.3 重38.45g	直刃鎌。			覆土 完形	SI06No.20

SI-07 (第17図、図版5)

位置 X=94、Y=53 重複 SI01と重複し、SI01の北西隅部を掘り込んでいる。平面形状・規模 東西方向2.55m以上、南北方向2.26mの長方形と推測され、西側は調査区外に延びている。覆土 2層の自然堆積壁 残存高40cm 床 全体にやや硬化している。柱穴 なし 入り口施設 不明 周溝 なし カマド 調査区内では確認されていない。出土遺物 土師器の甕(4)が南壁に寄った床面から、自然礫(5)や土師器坏(1・2・3)と伴に出土している。自然礫はカマド支脚程度の大きさで被熱を受けており土師器甕の口に架かる位置から出土している。

第11表 SI07出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器坏	口径14.2 丸底 器高3.8	体部～底部ヘラケズリ。内面黒色処理(漆仕上げか)。	外:にぶい褐色 内:黒色	暗赤褐色スコリア粒 普通	床 80%以上残存	SI07No.1、2
2	土師器坏	口径13.5 底径 器高4.3	体部～底部外面ヘラケズリ。内面ナデ調整。内外面口縁部付近黒色処理(漆仕上げか)。	外:燈色 内:燈色	暗褐色スコリア粒 普通	床 ほぼ完形	SI07No.4
3	土師器坏	口径13.8 底径 器高3.4	体部～底部外面ヘラケズリ。内面ヨコナデ調整。	外:にぶい褐色 内:にぶい褐色	暗褐色スコリア粒 良好	床 口縁部一部欠け	SI07No.2、3
4	土師器甕	口径23.2 底径5.2 器高31.0	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面斜方向ヘラケズリ。	外:燈色 内:燈色	微砂粒多量 普通	床 ほぼ完形	SI07No.1
5	石製品	長20.6 幅11.3 厚10.0 重2600g	花崗岩の不整形な楕円礫。中位が赤化し、先端部は煤け黒色化している。			4の甕の口縁部付近	SI07S No.1

SI-08 (第18図、図版5)

位置 X=94、Y=55 重複 なし 平面形状・規模 東壁と西壁は調査区外にある。南北方向2.90m、東西方向1.66m以上で、主軸方向はN-20°-E。覆土 4層の自然堆積。壁 残存高28cm 床 北側に幅0.78mの溝状の攪乱が入り床面を壊している。柱穴 なし 入り口施設 不明 周溝 南壁直下に深さ約2cm、幅約12cmの規模で見られる。カマド 攪乱の溝に袖部先端を壊されている。袖基部最大幅0.80m、袖部奥行き0.36m、燃焼室奥行き0.24m。出土遺物 底部糸切り土師器坏(1)と須恵器杯(2)が出土している。

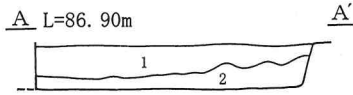
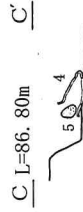
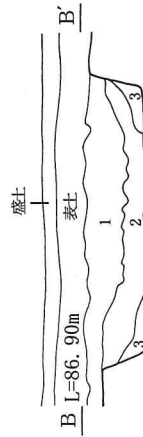
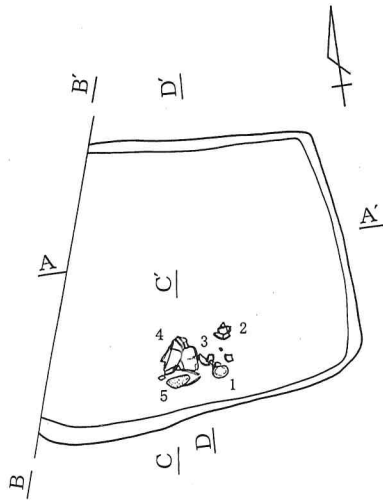
第12表 SI08出土遺物

[] 残存値、() 推定値

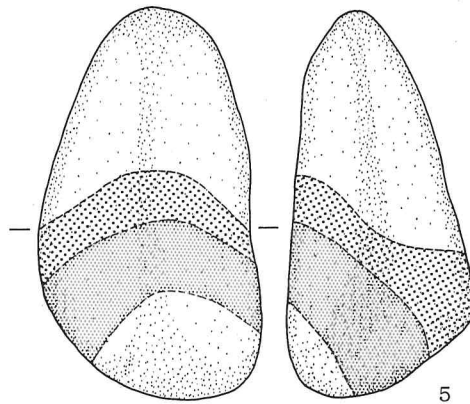
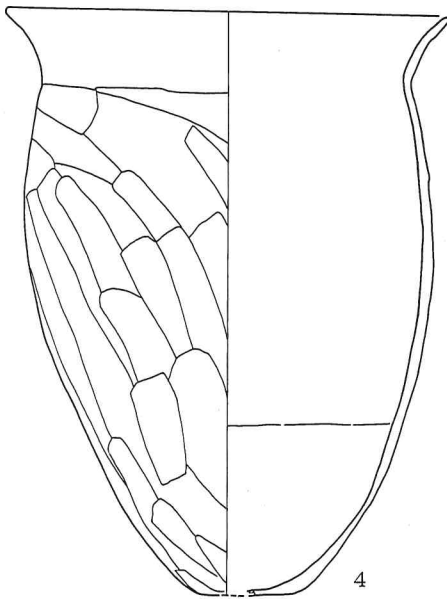
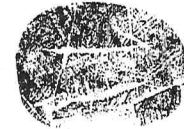
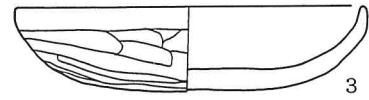
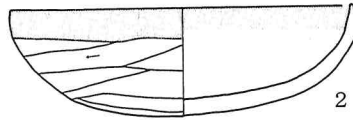
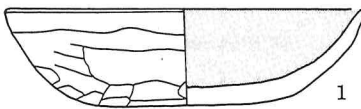
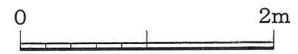
No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器坏	口径 底径(6.0)	体部内面ミガキ、底部回転糸切り。	外:にぶい褐色 内:褐色	微砂粒 良好	覆土 底部片	SI08フク土
2	須恵器坏	口径(12.2) 底径	内外面ロクロナデ。	外:灰白色 内:灰白色	黒色粒 普通	覆土 口縁部片	SI08フク土 三産

SI-09 (第18図、図版5)

位置 X=94、Y=55 重複 SI10と重複し、SI10を掘り込んでいる。平面形状・規模 3.88×1.80m以上 覆土 4層の自然堆積。壁 残存高40cm。床 全体的に硬化している。柱穴 調査範囲内では確認されていない。入り口施設 確認されていない。周溝 なし カマド 確認されていない 出土遺物 土師器の坏(1)、甕(2)、外面格子叩きの須恵器甕破片(3)が覆土から出土している。



SI-07
 第1層 黒褐色 (橙色パミス多量、しまりあり)
 第2層 灰黄褐色 (ローム粒子多量、橙色パミス少量、しまりあり)
 第3層 にぶい黄橙色 (地山流入土)

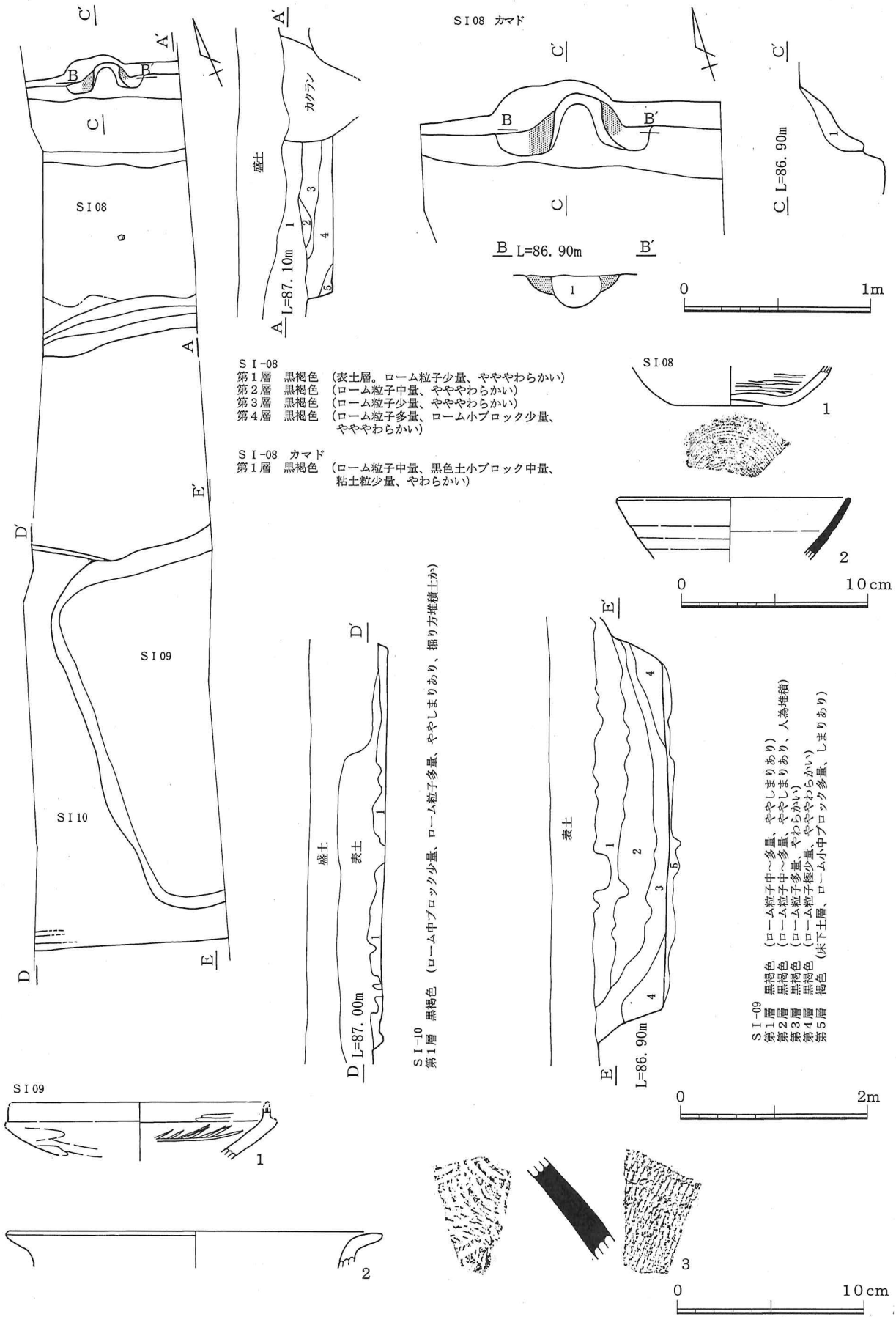


赤い部分

黒変部分



第17図 SI07



SI-08
 第1層 黒褐色 (表土層。ローム粒子少量、やややわらかい)
 第2層 黒褐色 (ローム粒子中量、やややわらかい)
 第3層 黒褐色 (ローム粒子少量、やややわらかい)
 第4層 黒褐色 (ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、やややわらかい)

SI-08 カマド
 第1層 黒褐色 (ローム粒子中量、黒色土小ブロック中量、粘土粒少量、やわらかい)

SI-10 黒褐色 (ローム中ブロック少量、ローム粒子多量、ややしまりあり、掘り方堆積土か)

SI-09
 第1層 黒褐色 (ローム粒子中〜多量、ややしまりあり)
 第2層 黒褐色 (ローム粒子中〜多量、ややしまりあり、人為堆積)
 第3層 黒褐色 (ローム粒子多量、やわらかい)
 第4層 黒褐色 (ローム粒子極少量、やややわらかい)
 第5層 褐色 (床下土層、ローム小中ブロック多量、しまりあり)

第18図 SI 08~10

第13表 SI09出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特 徴	色 調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 坏	口径13.8 底径 器高	底部ヘラケズリ後ミガキ。内面ミガキ。	外:黒褐色 内:にぶい褐色	微砂粒 良好	覆土 破片	SI09フク土
2	土師器 甕	口径20.0 底径 器高	口縁部内外面ヨコナデ。	外:橙色 内:橙色	鉱物粒をほとんど 含まない 良好	覆土	SI09フク土
3	須恵器 甕	口径 底径 器高	外面格子叩き、内面同心円文アテ具痕。	外:青灰色 内:にぶい褐色	石英微粒少量 普通	覆土	SI09フク土

S I -10 (第18図)

位置 X=94、Y=55 重複 S I 09と重複し、東側をS I 09に掘り込まれている。平面形状・規模 西側は調査区外に延びている。南北方向4.34m、東西方向2.08m以上。覆土 床下の掘り方土層が1層確認されている。壁 残存していない。掘り方深さ約10cm。床 掘り方覆土が露出しており、床面は確認できなかった。柱穴 確認されていない。周溝 土層断面で周溝掘り方が確認されている。出土遺物 なし。

S I -11 (第19図、図版5)

位置 X=94、Y=54 重複 S K12と重複し、S K12の上部を掘り込んで床面を構築している。平面形状・規模 4.90×3.10mで、主軸方向はN-95°-W。覆土 2層の自然堆積。壁 残存高28cm。床 西部の1/3の範囲が一段10cm程高くなっている。全体的に硬化している 柱穴 P1~2は主柱穴で径0.30~0.40m、深さ0.38~0.52m。入り口施設 P4が出入り口ピットになるものと思われる。周溝 なし カマド 袖部最大幅0.90m、袖部奥行き0.65m、燃烧室奥幅0.24m。出土遺物 土師器坏(1)、鉢(2)、甕(3)が覆土から、土製品の支脚(4)がカマド前面の床上から出土している。

第14表 SI11出土遺物

[] 残存値、() 推定値

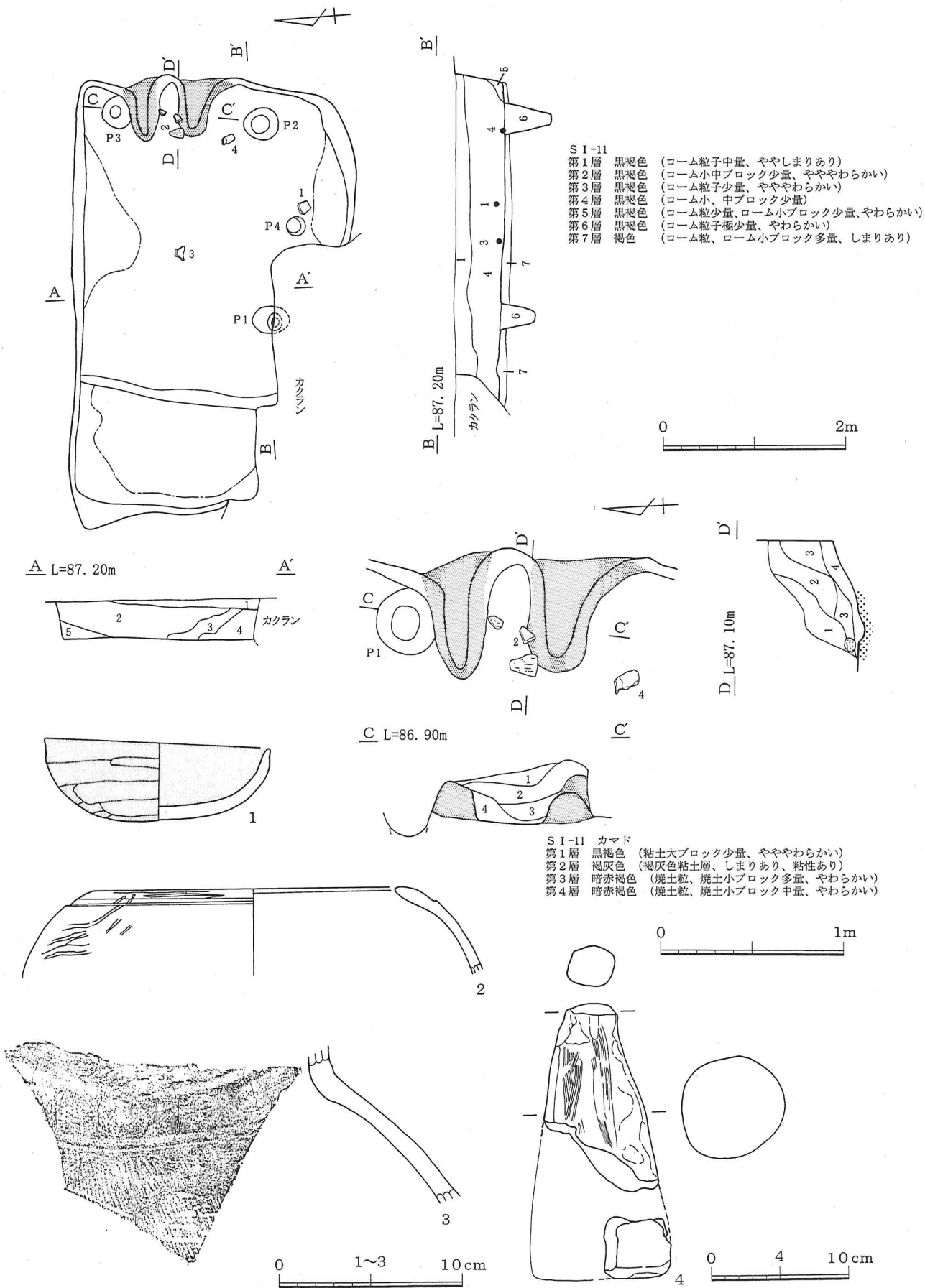
No.	器種	法量 (cm・g)	特 徴	色 調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 坏	口径12.2 器高4.3	底部ヘラケズリ。内外面黒色処理。	外:黒色 内:にぶい橙色	黒褐色スコリア 粒少量 普通	覆土 90%	SI11No.2、フク土
2	土師器 鉢	口径15.4 底径	外面ミガキ調整。	外:明黄褐色 内:灰褐色	白色微砂粒少量 良好	覆土 口縁部片	SI11No.4
3	土師器 甕	口径 底径	外面ハケ調整。	外:にぶい褐色 内:灰褐色	石英、細粒多量 良好	覆土 破片	SI11No.1
4	土製品 支脚	長 [13.8] 厚 [7.4] 幅 [10.5]		外:にぶい褐色 内:にぶい橙色	普通	床面 70%	SI11No.6

S I -12 (第20図、図版6)

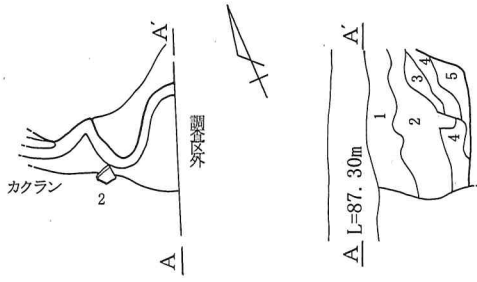
位置 X=95、Y=54 重複 攪乱によってカマド以外の部分を壊されている。平面形状・規模 不明。覆土 2層の自然堆積。壁 残存高10cm。カマド 左袖と燃烧室が残存している。左袖は粘土を主体として構築されており、燃烧室内には粘土の堆積が見られた。出土遺物 土師器の甕(1)がカマドから、(2)の甕は左袖前面の床上から出土している。

第15表 SI12出土遺物

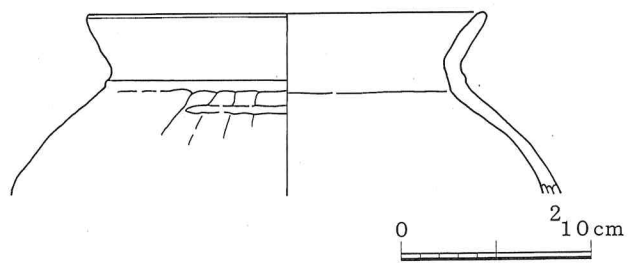
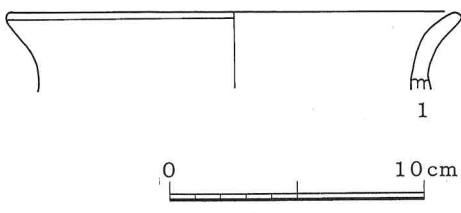
No.	器種	法量 (cm・g)	特 徴	色 調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 甕	口径18.0 底径	口縁部内外面ヨコナデ。	外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	細砂粒多量 普通	カマド 口縁部片	SI12カマド
2	土師器 甕	口径21.0 底径 器高	口縁部内外面ヨコナデ。胴上半部ヘラナデ、内面ヘラナデ。	外:浅黄橙色 内:浅黄褐色	暗赤褐色スコリア 粒少量 良好	覆土 50%	SI12No.1



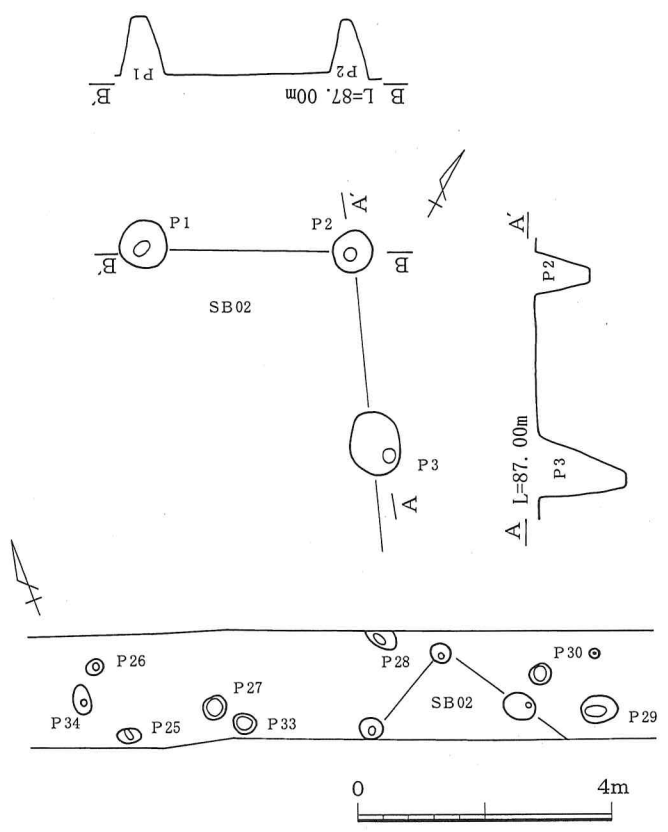
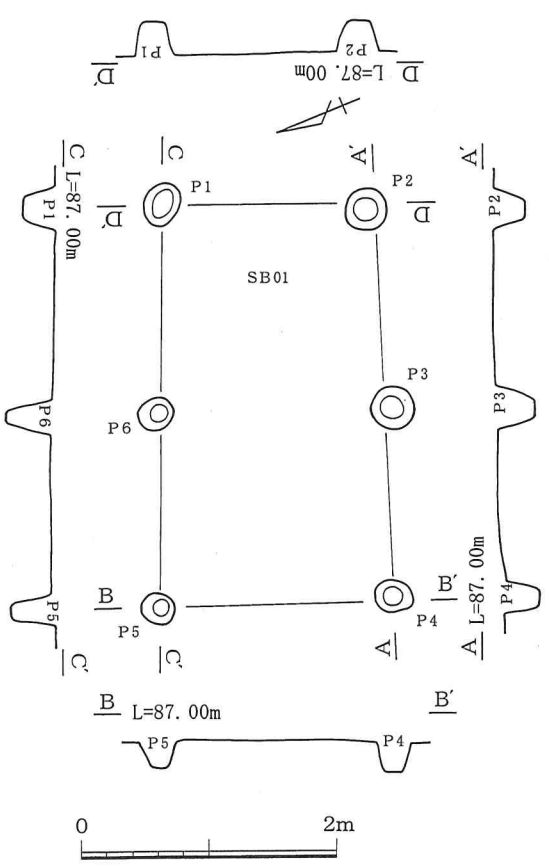
第19図 SI111



- S I-12 カマド
- 第1層 黒褐色 (ローム粒子少量、しまりあり)
 - 第2層 黒褐色 (ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ややしまりあり)
 - 第3層 暗赤褐色 (焼土小ブロック多量、粘土中量、やわらかい)
 - 第4層 褐色 (粘土主体、やわらかい)
 - 第5層 灰褐色 (焼土粒、小ブロック中~多量、やわらかい)



第20図 S I 1 2



第21図 SB01~02

2. 掘立柱建物跡 (第21図、図版7)

1区の南部で、2棟確認されている。

SB01

調査区の西南部、X=94、Y=53、54にある。梁行1間、桁行2間の小形の建物で、柱間は梁方向1.7~1.8m、桁方向1.6m前後である。柱穴の規模は、径22~34cm、深さ25~35cmで、SD01によってP1・2の上部が壊されている。遺物は出土していない。

SB02

調査区の西南部、X=93、94、Y=54、55にある。調査区内で1間×1間分確認されている。南側の調査区外に延びているものと見られる。柱間は約1.65mである。柱穴の規模は、径32~48cm、深さ42~67cmである。遺物は出土していない。

3. 土坑・ピット (第22、23図、第15・16表、図版6・7)

土坑は10基確認されている。SK03のように、径約1.2mと小規模で平安時代の遺物を出土した土坑とSK04のように径約2.4m、深さ約1.0mと規模が大きい古墳時代の土坑がある。小ピットは全部で25基確認されている。詳細は土坑一覧表・ピット一覧表を参考にしていきたい。

第16表 SK01出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 坏	口径 (12.8) 底径 器高	底部ヘラケズリ。口縁部内外面黒色処理。	外: にぶい褐色 内: 灰褐色	石英を含む砂粒 良好	覆土 20%	SK01フク土
2	土師器 坏	口径 (13.8) 底径 器高	底部ヘラケズリ。	外: 浅黄橙色 内: 浅黄橙色	長石微細粒多量 良好	覆土 20%	SK01フク土
3	土師器 坏	口径 (12.8) 底径 器高	底部ヘラケズリ。	外: 灰褐色 内: 灰褐色	石英粒極少量、 砂岩礫 良好	覆土 15%以下	SK01フク土
4	土師器 鉢	口径 (27.5) 底径 器高	外面ヘラナデ、内面黒色処理後ミガキ	外: にぶい黄褐色 内: 黒色	石英微粒極少量 良好	覆土 10%	SK01フク土

第17表 SK03出土遺物

[] 残存値、() 推定値

No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 坏	口径12.5 器高6.4 底径3.3	内面ミガキ、底部回転糸切り。	外: 明黄褐色 内: 黒褐色	微細粒 良好	覆土 20%以下破片	SK03No.1
2	須恵器 坏	口径 器高 底径7.0	底部ヘラ切り無調整。	外: 灰色 内: 灰色	長石粒、チャー ト礫、スコリア 普通	覆土 底部75%	SK03No.3 益子産

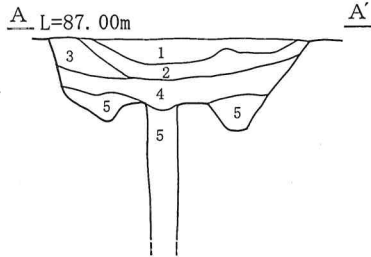
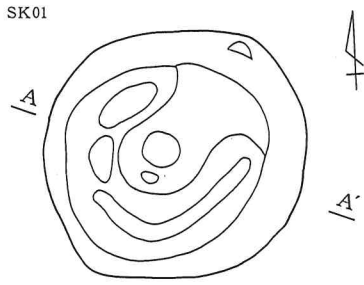
第18表 P27出土遺物

[] 残存値、() 推定値

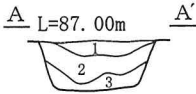
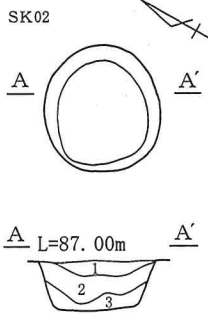
No.	器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1	土師器 鉢?	口径 器高 丸底	内外面ミガキ調整。	外: 燈色 内: 燈色	石英・角閃石微 粒極少量 良好	覆土 胴部~底部破片	P27フク土
2	土師器 甕	口径 (20.0) 器高 底径	口縁部内外面ヨコナデ。	外: 燈色 内: 燈色	石英・角閃石を 含む細砂粒 良好	覆土 口縁部片20%	P27フク土

4. 溝 (第24図、図版7)

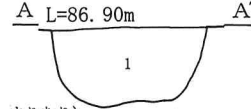
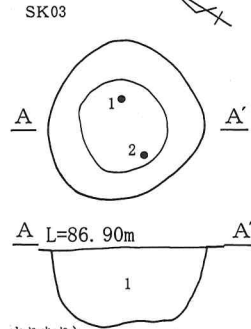
幅0.42~0.64m、深さ約0.23m、長さ19m以上の南北方向に走る溝が1条確認されている。切り合い関係で2号住居跡より新しく、表土を切り込んでいるため、近代以降の溝と考えられる。遺物は出土していない。



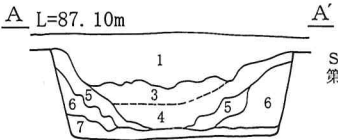
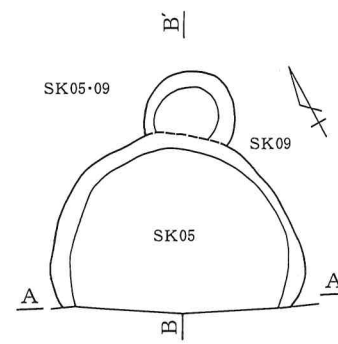
- SK-01
 第1層 極暗褐色 (ローム粒子中量、しまりあり)
 第2層 黒褐色 (ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、しまりあり)
 第3層 黒褐色 (ローム粒子少量、しまりあり)
 第4層 黒褐色 (ローム粒子中量、黒色土少量、粘土大ブロック少量、やや軟らかい)
 第5層 黒褐色 (ローム粒子多量、ローム小中ブロック少量、やわらかい)



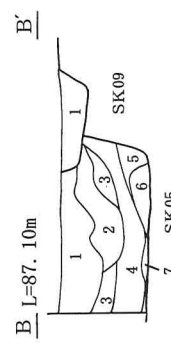
- SK-02
 第1層 黒褐色 (ローム粒子中量、灰白色(バミスカ)粒極少量、しまりあり)
 第2層 黒褐色 (ローム粒子中量、しまりあり)
 第3層 黒褐色 (ローム粒子多量、しまりあり)



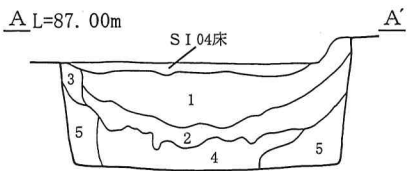
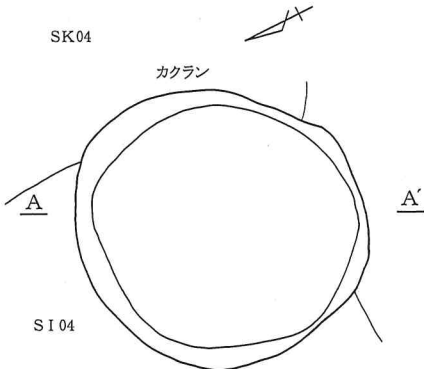
- SK-03
 第1層 黒褐色 (ローム粒子中〜多量、炭化物極少量、ローム小ブロック少量、しまりあり)



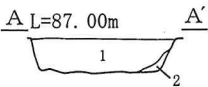
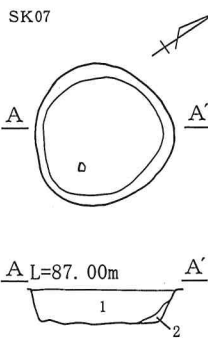
- SK-05
 第1層 黒褐色 (ローム粒子多量、やややわらかい)
 第2層 暗褐色 (ローム小中ブロック多量、やわらかい)
 第3層 黒色 (ローム粒少量、やわらかい)
 第4層 黒褐色 (ローム粒中量、やわらかい)
 第5層 褐色 (ローム主体、やわらかい)
 第6層 黒褐色 (ローム小ブロック中量、やわらかい)
 第7層 褐色 (ローム大ブロック)



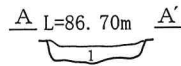
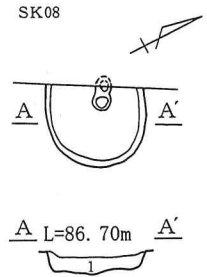
- SK-09
 第1層 黒褐色 (ローム粒子少量、やわらかい)



- SK-04
 第1層 黒褐色 (ローム小ブロック少量、ローム粒子多量、しまりあり)
 第2層 黒褐色 (ローム小ブロック少量、ローム粒子多量、やややわらかい、FA小粒極少量)
 第3層 黒褐色 (ロームブロック中量、ローム粒子多量、しまりあり)
 第4層 黒褐色 (ローム小ブロック中量、ローム粒子多量、やややわらかい)
 第5層 褐色 (ローム主体、やわらかい)



- SK-07
 第1層 黒褐色 (ローム微粒子少量〜中量、しまりあり)
 第2層 褐色 (褐色ソフトローム主体、しまりあり)

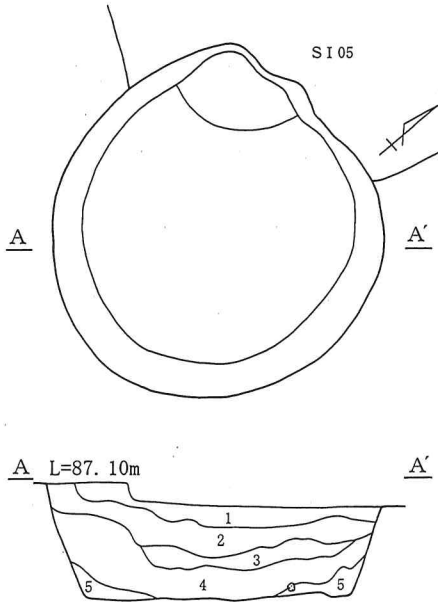


- SK-08
 第1土層 黒褐色 (ローム粒子少量、橙色小ブロック少量、やややわらかい)

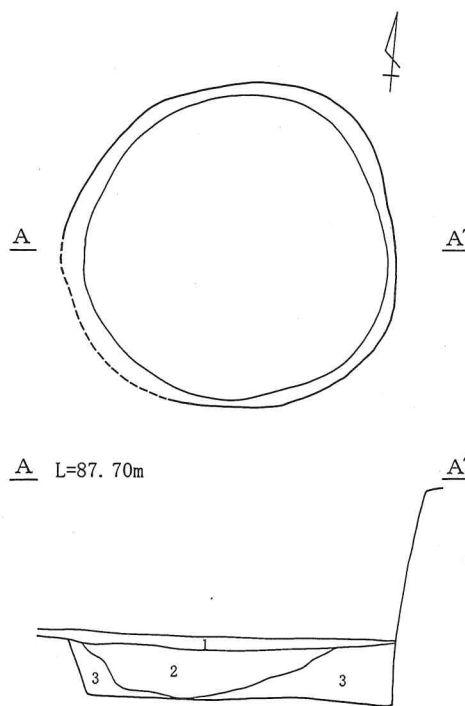


第22図 SK01~05・07~09

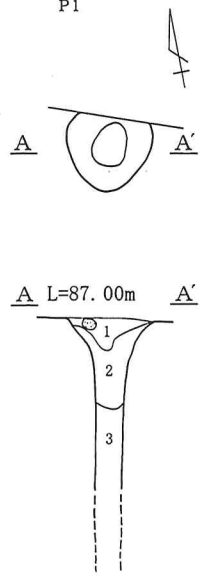
SK11



SK12



P1



SK-11

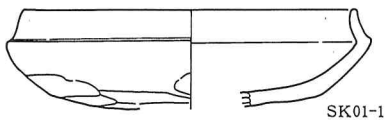
- 第1層 黒褐色 (ローム粒子少量、しまりあり)
- 第2層 黒褐色 (ローム小中ブロック中〜多量、ローム粒子多量、やややわらかい)
- 第3層 黒褐色 (ローム中大ブロック中量、ローム粒子多量、FA小ブロック極少量、やややわらかい)
- 第4層 黒褐色 (ローム中大ブロック中量、ローム粒子多量、やややわらかい)
- 第5層 黒褐色 (ローム中大ブロック多量、ローム粒子多量、やややわらかい)

P1

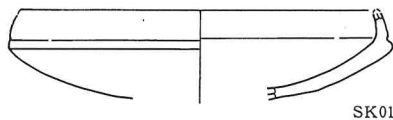
- 第1層 黒褐色 (白色スコリア粒中量、ローム粒少量、しまりあり)
- 第2層 黒褐色 (ローム粒多量、白色粒少量)
- 第3層 褐色 (ローム主体、ローム小ブロック中量、やややわらかい)

SK-12

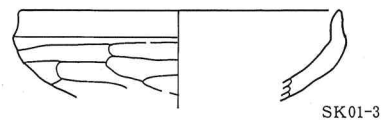
- 第1層 黒褐色 (ローム小〜大ブロック多量、しまりあり (S I-11の床下堆積土層))
- 第2層 黒褐色 (ローム小ブロック少量、やややわらかい)
- 第3層 黒褐色 (ローム小ブロック少量、ローム粒子多量、やややわらかい)



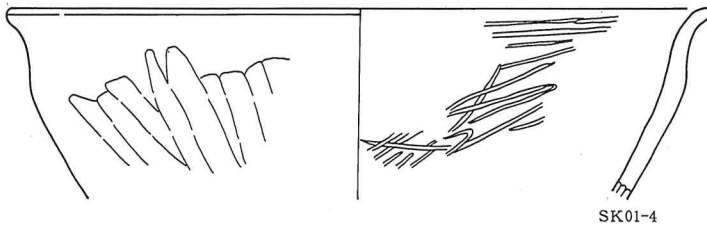
SK01-1



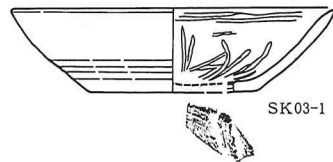
SK01-2



SK01-3



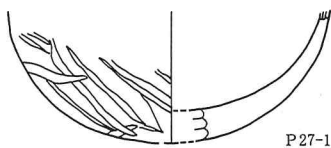
SK01-4



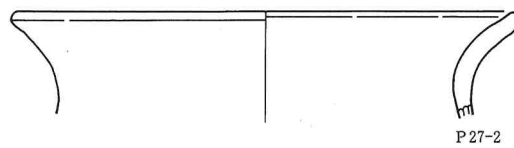
SK03-1



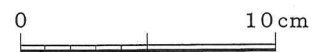
SK03-2



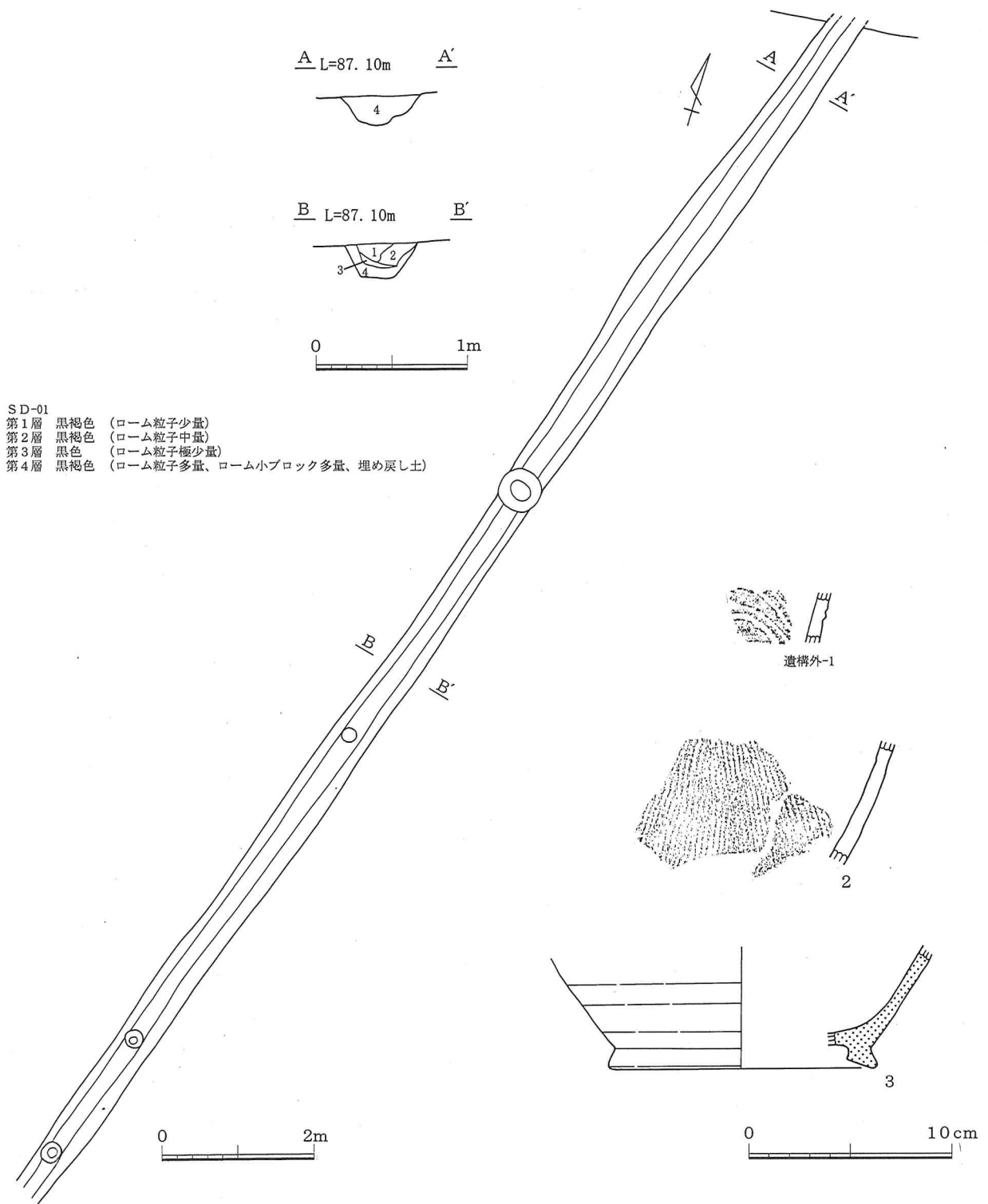
P27-1



P27-2



第23図 SK11・12、P1、土坑・ピット出土遺物



SD-01
 第1層 黒褐色 (ローム粒子少量)
 第2層 黒褐色 (ローム粒子中量)
 第3層 黒色 (ローム粒子極少量)
 第4層 黒褐色 (ローム粒子多量、ローム小ブロック多量、埋め戻し土)

第24図 SD01・遺構外出土遺物

第19表 遺構外出土遺物

[] 残存値、() 推定値

器種	法量 (cm・g)	特徴	色調	胎土・焼成	出土・残存状況	注記・備考
1 縄文土器		胴部小破片。押し引き沈線による施文。	外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	長石細粒多含 普通	遺構外 破片	SI06フク土 前期諸機
2 縄文土器		胴下半部の破片で、縦走る捺糸文が施文されている。	外:にぶい橙色 内:灰褐色	白色小砂粒含む 普通	覆土 破片	SK04フク土
3 灰釉陶器 口径 広口瓶 底径13.3			外:灰オリーブ 内:灰白色	緻密 良好	表土 底部片	95-53 フク土

第20表 土坑一覧表

[] 現存値

No.	位 置	平面形状	長径×短径×深さ (cm)	備 考
SK01	調査区北部95-54G	円形	208×196×86	土師器坏3点(1~3)、甕1点(4)
SK02	調査区西部95-53・54G	円形	100×90×38	
SK03	調査区西部94-53G	円形	122×115×60	土師器坏1点(1)、須恵器坏1点(2)
SK04	調査区中央部やや南西寄り94-54G	円形	236×214×100	SI-04に切られている。
SK05	調査区南部94-54G	円形	200×[140]×70	SK-09に切られている。
SK07	調査区北東寄り95-54G	円形	11×11×28	
SK08	調査区西部95-53G	円形	78×[65]×13	
SK09	調査区南部94-54G	楕円形	70×[50]×20	SK-05を切っている。
SK11	調査区中央部94・95-54G	不整形円形	280×265×92	SI-05に切られている。
SK12	調査区中央部94-54G	不整形円形	264×260×52	SI-11・12に切られている。

第21表 ピット一覧表

[] 現存値

No.	位 置	平面形状	長径×短径×深さ (cm)	備 考
P 1	調査区北部95-54G	円形	66×[60]×77	
P 3	調査区北部94-54G	円形	60×56×11	
P 4	調査区北部94-54G	楕円形	36×25×32	
P 5	調査区北部95-55G	円形	52×48×18	
P 7	調査区西部95-54G	楕円形	50×38×26	
P 8	調査区西部95-53G	楕円形	42×32×32	
P 9	調査区西部94-54G	円形	56×54×50	
P10	調査区西部94-53G	円形	48×46×27	
P11	調査区西部94-53G	楕円形	46×40×34	
P12	調査区西部94-53G	楕円形	66×44×48	
P16	調査区西部94-53G	楕円形	46×40×27	
P17	調査区南部94-54G	円形	40×36×43	
P20	調査区南部94-54G	円形	48×44×17	
P21	調査区南部94-54G	楕円形	40×32×23	
P23	調査区南部94-54G	楕円形	42×36×30	
P25	調査区南部94-54G	円形	36×24×68	
P26	調査区南部94-54G	円形	28×25×70	
P27	調査区南部94-54G	円形	38×36×43	土師器坏1点(1)、甕1点(2)
P28	調査区南部94-54G	楕円形	[52]×36×42	
P29	調査区南部93-55G	楕円形	60×44×40	
P30	調査区南部93-55G	円形	36×34×22	
P31	調査区南東部93-55G	円形	41×36×12	
P32	調査区南東部93-55G	楕円形	44×34×32	
P33	調査区南部94-54G	円形	32×30×34	
P34	調査区南部94-54G	楕円形	48×30×53	

5. 遺構外遺物 (第24図、図版10)

縄文時代の遺物が古墳時代のS I 06とSK04の覆土から出土している。1は縄文時代前期の諸磯式土器で押し引き沈線文が施されている。2は縄文土器深鉢で燃糸文が施されている。3の灰釉陶器瓶類の底部は1区の西端に堆積している表土の下層ないし薄い包含層(X=95、Y=53)から出土している。

III むすび

西刑部遺跡から検出された、竪穴住居跡や土坑について時期のはっきりしているものについて特徴をまとめてむすびとしたい。古墳時代中期のS I 01は4本主柱穴でカマドを持たない住居跡で、出土遺物は中期のはじめ頃の様相のものである。古墳時代後期では、直刃鎌を出土したS I 06が一边11mを越える大型住居跡で、間仕切り溝を多く持つ特徴が見られた。その他の古墳時代後期の住居跡は、S I 02が6世紀後半、S I 03・04・09・11・12は7世紀代のものと思われ、やや小形で東西方向に長い住居跡が多い。古墳時代の土坑は1・4・11・12号土坑で、7世紀代の住居跡と切り合い関係がありいずれも住居跡よりも古い土坑である。径が2m、深さ1m程の規模があり、屋外貯蔵等に使用された土坑と考えられている。

S I 05は平安時代の住居跡で、長方形プランで3本柱穴、大型のカマドを持つ特徴があり、出土遺物の中で鉄製品に特徴が見られた。鉄製品には刀子の他に鋸、銚子(さしなべ)の注ぎ口片、不明工具が見られ、特に鋸はきわめて出土例が少ないものである。



1区 完掘全景（東から）

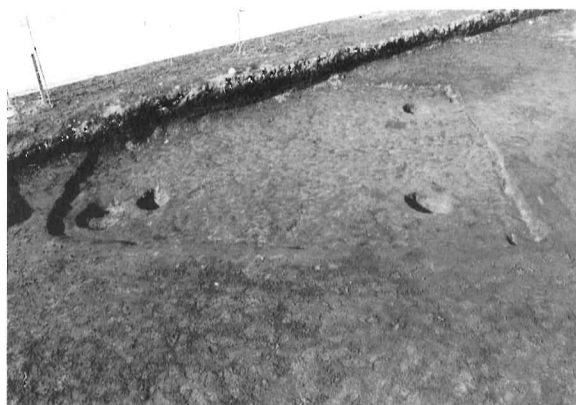


2区 完掘全景（東から）

図版2



調査前風景（東から）



SI01 完掘状況（南東から）



SI01 掘り方完掘状況（南東から）



SI02 遺物出土状況（南東から）



SI02 完掘状況（南東から）



SI02 掘り方完掘状況（西から）



SI03 床面検出状況（南東から）



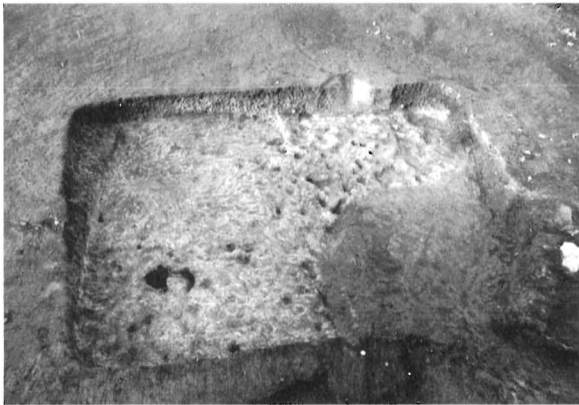
SI03 床下掘り方完掘状況（南東から）



S104 遺物出土状況（西から）



S104 完掘状況（南から）



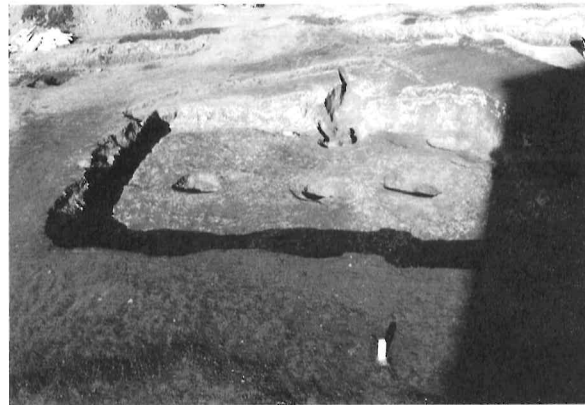
S104 掘り方完掘状況（南から）



S105 遺物出土状況（南から）



S105 鋸出土状況（東から）



S105 完掘状況（南から）



S105 カマド土層断面（西から）



S105 カマド完掘状況（南から）

図版4



S I 06 遺物出土状況（西から）



S I 06 2区遺物検出状況（西から）



S I 06 完掘状況（北から）



S I 06 掘り方完掘状況（東から）



S I 06 掘り方完掘状況（西から）



S I 06 掘り方完掘状況 (西から)



S I 07 遺物出土状況 (東から)



S I 07 遺物出土状況 (東から)



S I 07 掘り方完掘状況 (東から)



S I 08 完掘状況 (北から)



S I 09 完掘状況 (西から)



S I 11 遺物出土状況 (南から)



S I 11 完掘状況 (南から)

図版6



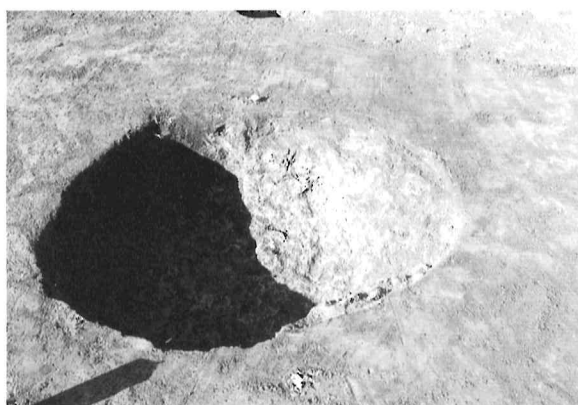
S I 1 1 カマド完掘状況（西から）



S I 1 2 完掘状況（南から）



S K 0 1 完掘状況（北から）



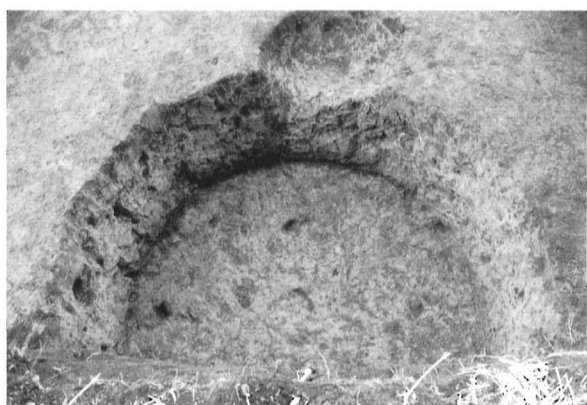
S K 0 2 完掘状況（南東から）



S K 0 3 完掘状況（西から）



S K 0 4 完掘状況（東から）



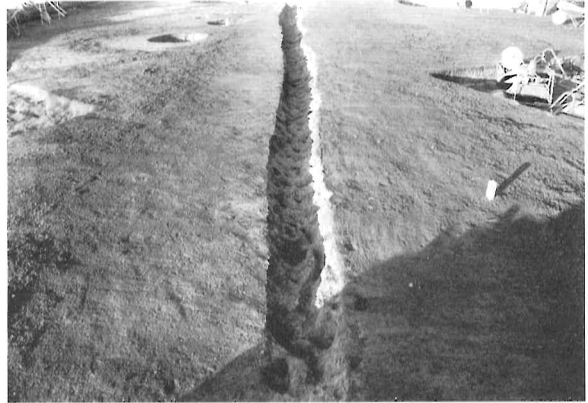
S K 0 5 完掘状況（南から）



S K 1 1 完掘状況（南から）



SK12 完掘状況 (南から)



SD01 完掘状況 (南から)



SB01 完掘状況 (東から)



SB02 完掘状況 (西から)



SI01-1



2

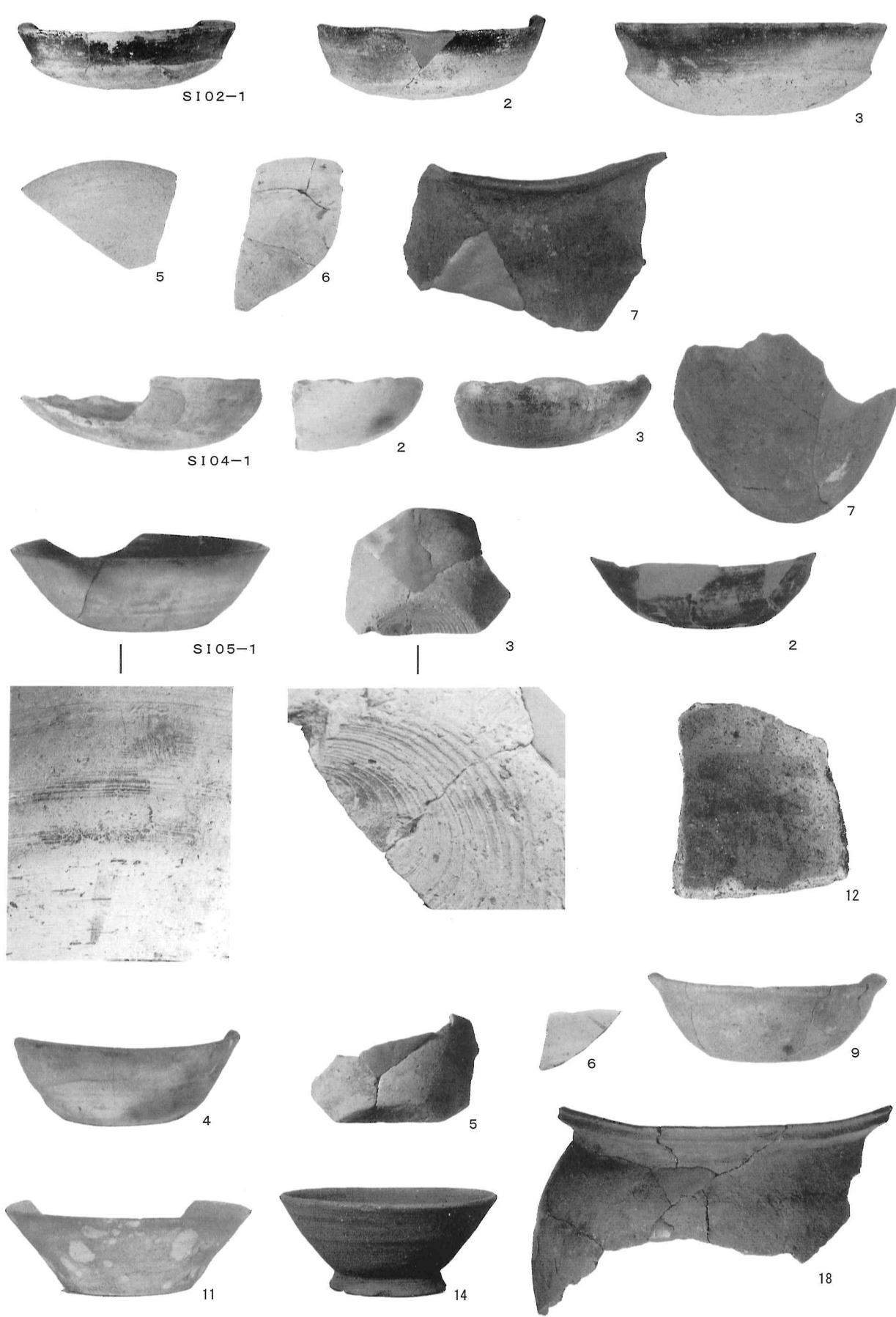


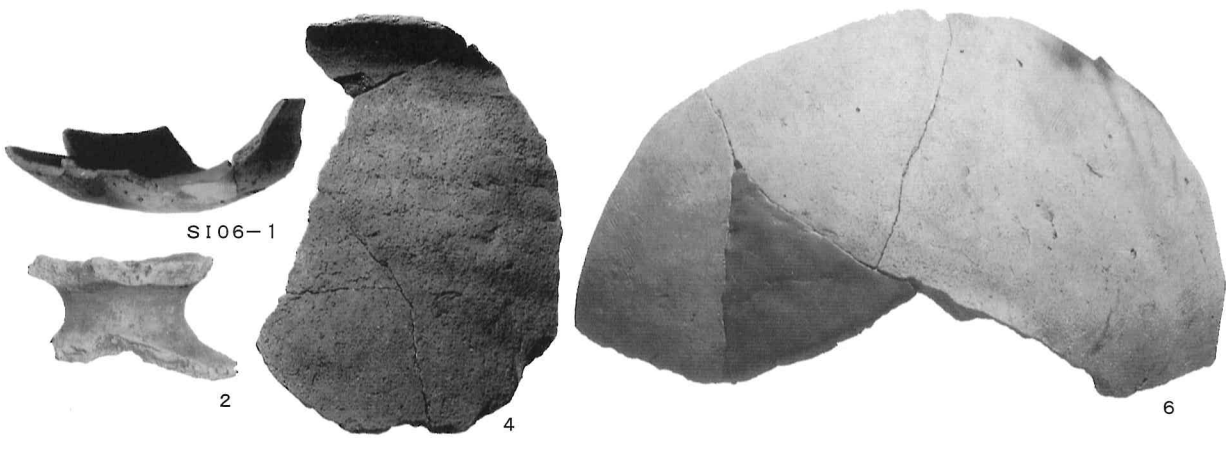
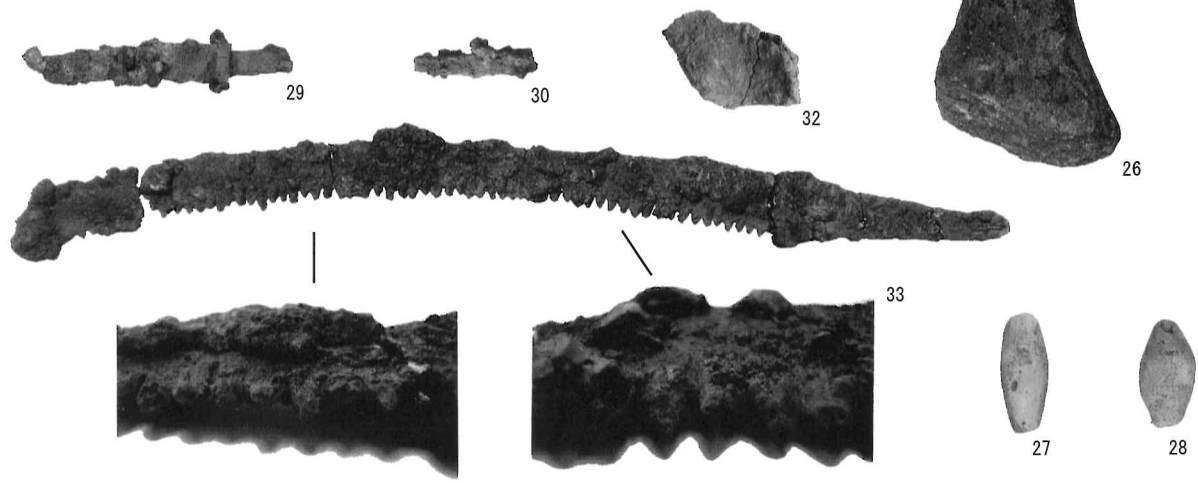
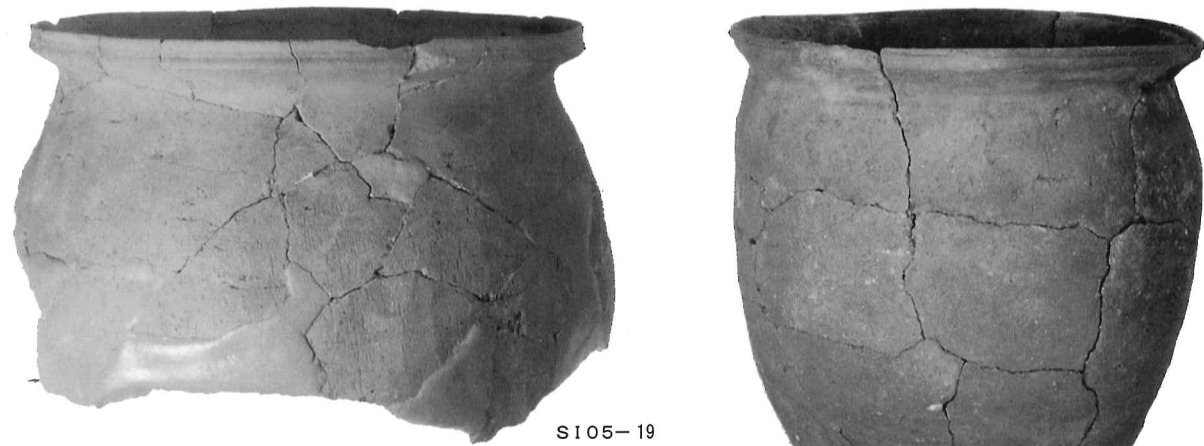
4



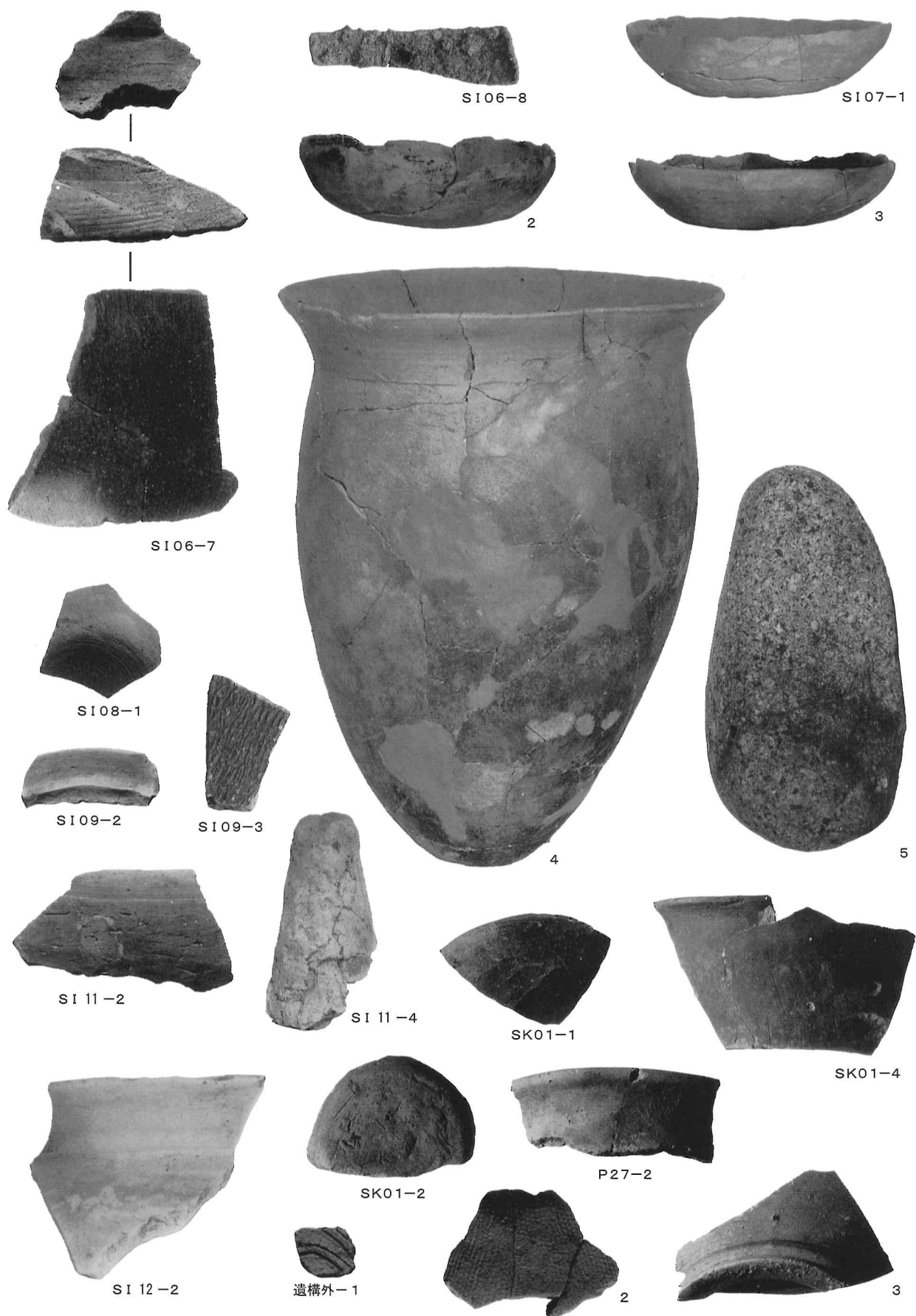
3

图版8





图版 10



出土遺物 (4)

報告書抄録

ふりがな	にしおさかべにしはらいせきはつくつちょうさほうこくしょ
書名	西刑部西原遺跡発掘調査報告書
副書名	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第59集
編著者名	大塚 雅之、土生 朗治、越智 徹、宮田 和男
編集機関	山武考古学研究所
発行機関	宇都宮市教育委員会
所在地	〒320-8540 栃木県宇都宮市旭町1-1-5 TEL. 028-632-2764
発行年月日	西暦 2007年 5月 31日

所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしおさかべにしはら 西刑部西原遺跡	とちぎけんうつのみやし 栃木県宇都宮市 とうやまち 東谷町インター パーク52-2街 区1画地	09201	4354	36° 29' 33"	139° 54' 59"	20070104 ~ 20070206	1,000	山品商事株式会社が行 う施設建設工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺構と遺物	特記事項
西刑部西原遺跡	集落跡	古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡、土坑 竪穴住居跡、土坑 掘立柱建物跡(時期不 明)	土師器(高坏、壺、甕)、土製品(支 脚)、鉄製品(鎌) 土師器(坏、甕)、須恵器(坏、甕) 土師器(坏、甕)、須恵器(坏、甕) 灰釉陶器(長頸瓶)、墨書土器、土製 品(土錘)、石製品(紡錘車、砥石、 編み物石)、鉄製品(刀子、鋸、銚子、 不明工具)	平安時代の鋸が出土 している。

要約	西刑部西原遺跡の北部域に当たる場所の調査で、古墳時代～奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡や掘立柱建物跡、土坑が検出されている。遺跡から出土している主な遺物には土師器、須恵器、灰釉陶器、土製品、石製品、金属製品等がある。平安時代の竪穴住居跡からは鋸、銚子が出土している。
----	--

宇都宮市埋蔵文化財調査報告第59集

西刑部西原遺跡

発行年月日 平成19年 5月31日

発行 宇都宮市教育委員会文化課
(宇都宮市旭1-1-5)

TEL (028) 632-2764

印刷 (有)京文社印刷

TEL 043 (242) 0064